



はんさむウーマン

新座版

女のおまつり元気にやろう

- ◆在日元慰安婦・宋神道さんの裁判に寄せて—金 富子
- ◆姓という重しを引きずって——浦島悦子
- ◆報告 樋口事件勝訴・花の乱敗訴
- ◆連載 看護婦 光と影 (6)——増田れい子
- ◆連載 首里城攻防戦 (5)

185号 今月の発信・埼玉



女だから豊かです はんさむです

女のおまつり元気にやろう

どうしてあんなステキな催しできたの？

やった！ つくった！ 私たちのネットワーク

やったア！ 私たちの「女のまつり」

創作ミュージカル／ヴァンパイア・ショック

めじゃーなりすとのめ／女性の力でゴミ問題解決に

意見・異見／本人給二十六歳ストップに思うほか

報告／樋口事件勝訴・花の乱敗訴

宋神道さんの裁判に寄せて

試写室／月光の夏

活動から／改憲ムードにゆるがぬ女たちほか

集会から／憲法九条の危機と再生ほか

随想／姓という重しを負って

ふるさとを想う／おんぼらあと

気になる英語／マーベリック

TOPICS／女の情報ネットワーク発足ほか

あこら読書室／ヨーロッパ的発想とは何か

連載／看護婦 光と影（6）

連載／凄惨！首里城地下の沖縄戦（5）

つどいと講座

あこらのあこら

編集部

フェスティバル委員会

はんさむうーまん＋編集部

新座はんさむウーマン

新座はんさむウーマン

新座はんさむウーマン

荻原弘子

桑原ちあ子・浅野美和子ほか

澤田和子・片岡陽子

金 富子

大原 涼

川井和子ほか

高野ゆう子ほか

浦島悦子

皆森禮子

奥川 睦

増田れい子

1 2 4 15 28 35 44 46 50 54 63 64 66 70 72 74 76 78 80 88 92 94

女だから豊かです はんさむです

埼玉県新座市は人口十四万、東京の都心から二十キロ、首都圏衛星都市の一つである。意識は都民、環境は田園のこの小都市で、昨秋盛大な女のフェスティバルが開かれ、市民を驚かせた。歌あり踊りありクイズあり、老若男女を抱腹絶倒させて、終わってみると、それぞれ意識変革。——見事なパフォーマンスの主催者は、新座はんさむウーマンネットワーク。十七年間の女性学講座の受講生を中心に、いつしか芽生えた新しい動きは、その輪をさらに大きく広げた。

『美しい』は、日本では男女にかかわらずほぼ同じ形容詞が使われるが、英語では、男はハンサム、女はプリティかビューティフルが慣習。プリティやビューティフルが外観の美しさに傾きがちなのに対し、ハンサムには、端正、堂々とした、心ばえ豊かに美しく、といったイメージがある。女性運動の高まりとともに、女にもハンサムを、の聲が当然あがった。日本でも、NHKの人気番組『はんさむ・うーまん』が大ヒット。女をハンサムと呼ぶことは、いつしかむしろおしゃれになった。

人が何と思うと、自らをハンサムと信じるとき、人はハンサムになる。あえてハンサムを打ち出した新座の女たちも、そのネットワークをつくりながら、どんどん変身した。NHKの『はんさむ・うーまん』は、残念ながら三年で姿を消したが、その種は、これからも全国各地で芽ぶくことだろう。そして、これからが正念場。

これは新座の女たちの、はんさむな記録。あなたの地域でも、れっつ、とらい！

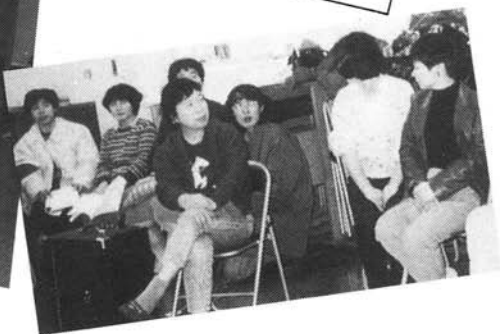
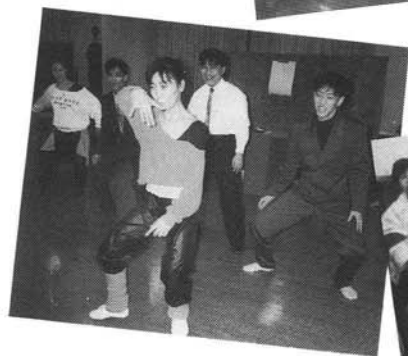
元気にやろう

フェスティバル委員会



昨年二月、新潟女性会議のミュージカル公演「ここは天国、あの世オ」のビデオをみんなで見る機会がありました。「面白そう」「これ、私たちにもできるんじゃない?」と話題騒然。「ヴァンパイア・ショック」の先づれ「ミュージカル・ショック」でした。大胆にも舞台女優への夢を見はじめた人、ダンサーとして観客を魅了したい人、プロデューサー気分の人、脚本の勉強や大道具の参考書を図書館から借りてきた人。さすが、日頃、公民館活動をこなす主婦同士、働く女性たちの行動力です。私たちは弾みにはずみ、芝居、それも本格的(ー)ミュージカル上演へとあつという間に火の手が上がるのに、そう時間はかかりませんでした。すぐに企画がまとまり、文部省の「女性の社会参加支援特別推進事業」に申請、スナリ通った時は歓声を上げたものです。いま、よくもまあ、と思うのは、一〇〇人を越える人が舞台上がるという、交通整理だけでも大変な女の「フェスティバル」に参加者が続々現れてくれたこと。これはまさに、みんなに変身

女のおまつり



願望があるってことではないでしょうか。次々に「やりたい」という人を熱いハートとやわらかく頭で受入れ、その態度、脚本の自身がふくらみました。女性、とくに私たち「オバサン」の日常を描いた「ヴァンパイア・ショック」の場合、セリフの一つひとつ、ストーリー展開、演じる時のしぐさのあれこれをめぐって、徹夜を辞さない議論がまき起こったこともあります。

「男女共生社会」を夢みながらも、具体的な問題解決のかたちを目の前に出す難しさにもつきあたりました。「時代に挑んだ女たち」のスライド制作をして、改めて先達の強烈な生き方に思いを馳せ、勇気が湧いたことも。ともあれ、新座の女たちには「やればできる」力が残っていたことがわかりました。これからの「はんさむウーマンネットワーク」、また新しい何かに挑戦してゆけるでしょう。

最後に、女性問題を真正面から見つめ、しかもたのしいミュージカルをみんなで創り上げる夢をかなえてくれた文部省に

Special thanks!

どうしてあんなステキな催しができたの？

——〈新座はんさむウーマン〉の原動力を聞く——

はんさむうーまん

内田典子

黒須さち子

小松とし子

菅原政子

星川一恵

ききて

斎藤千代

白井博子



(写真左から 菅原、内田、星川、小松、黒須、白井、斎藤)

長い積み重ねが実って

斎藤 新座で、「新座はんさむ・ウーマンフェスティバル」というすごい催しがあったという話を聞きました。ぜひ『あごら』でもご紹介したいと、その記録ビデオを拝見して、ますます感激しました。

まず「くれない太鼓」のりりしい音で始まる。そしてミュージカル。クイズを使つての女性問題のPRもステキだったし、女性議員をサポートするアピールもよかった。

こんなすばらしい催しが、一夜にしてできるはずはない。多分、たくさん積み重ねがあたりだったんでしょう。もともと新座は女性問題の講座を早くから続けていらしたし。そのへんから話してくださいませんか？

内田 新座市では、国際婦人年以降、女性問題を主体にした学習会を二つの

公民館でやりはじめたんです。現在公民館、コミュニティセンター合わせて八館ありまして、そのすべてで大人り小なり違いはありますけども、女性問題を入れた学習会をずっと続けて現在に至っているんです。でもそれはごく最近のことで、それまではずっと二つの公民館で学習しながら、それを生活に反映させてきました。特に今回の事業の中心になった〈働く女性の会〉は、十年前から毎年学習会をして、終わった後は独自の活動を、ということで、学習と自分たちの自主的な集まりを繰り返しながら重ねていったんですね。

今回の事業の一つ『サポートブック』という女性を支援する本、これも五年ぐらい前から、作りたいね、作ろうね、と言ってたんですけど、なかなか取り組みなかったんですが、委嘱金が出ましたので、今回やっと本にしました。また二つ目の事業のセミナーの開催は、

毎年やってる「働く女性の講座」というのを「はんさむウーマンセミナー」という名称に変えて行ないました。

あと、女性問題の学習を重ねる中で、社会にアピールする機会をもちたいということと、表現したいという思いがありまして、たまたま今回文部省から「女性の社会参加支援特別推進事業」としてお金が入ったので実現したんです。前年度の報告会を聞きに行きましたら働く女性を対象にした事業がなかったんですね。新座でやるなら特色を出さなくちゃいけない。文部省もそれなら、という面もあったもんですから、基本的には働く女性をメインにしながら、働く、働かないにかかわらず女性の問題を、男性も入れて楽しみながら伝えようと、イベントを考えたわけです。

今までの学習の積み重ねからいきますと、本を作ることと、働く女性の夜のセミナーというのは、日頃やってい

ることなのである程度力を出せばできるけど、フェスティバルというのは、新座市としては初めての試みなのね。基本的にはフェスティバルに力を入れようということで、今回のフェスティバルになったんです。

どうして文部省の事業に乗ることにしたかと言いますと、実は公民館の事業は住民が主体というのが基本で、これまでは、市民の企画準備会でやっていたんですが、館長が替わったとたん、働く女性の講座はもうやめてもいいんじゃないか、そんなに参加者も多くな いし、もっと層を変えて、時間帯を変えて、はっきり言えば昼にしようというところで、私たちのように働いていれば出られないような土曜日の午後とかいう話が出たんです。それまでは十年近く金曜日の夜にやってきたのに……。

これはもう学習する権利を侵害するものじゃないかということで、私たちの中でも、市議会でも、なぜそういう

ことをするんだろうかと議論がなされました。市の八公民館の中で働く女性の講座が二つになるから、一つで充分じゃないかということになった。新座市がいくら一つの市といっても地域は広く、生活圏がちがいますから、一つの公民館に要るんじゃないかと私たちは主張してきたのですが……。

そんないきさつがあった時にたまたま文部省の助成事業があるという情報をつかんだんです。だから、市に対して闘うと同時に、自分たちの力を積極的に売り込もうと考えました。

県の教育委員会の推せんも好意的でした。窓口は私の職場の中央公民館。同じ市内の公民館でしたけど、館長とも協議して、こちらで支援しながら計画をすすめていきました。

議会でも教育長が、部分的に検討して、やる方向にしましょうと答弁して決着がつきまして、結果的に文部省の方でもできるようになっただんです。

今回の事業が終わって、文部省の全国報告会に行きましたが、参加者から「よく、二百五十万のお金で、事業ができましたね」と言われました。やっぱり今までの積み重ねがあったからでしょうね。文部省の審議官もそう思ったようです。

斎藤 私もそう思いますね。あなた方がずっと培ってらしたから。歳月かけて……。それがなければできないなあと。

内田 さっき言ったように教育委員会の一部からは「いつまでも女性問題ばかりでは」というのがあったんですよ、「いやこれは住民が求めていますし、重要課題ですから」って何度か押し返したんですよね。

このエネルギーが結実するか

斎藤 新座は「MSリミズ」というグループがあって、女性議員を出すんだ

ということですから、頑張ってたし。そういう地域の力になる活動と、両方が歩み寄ってできたんでしょね。新座は市会議員の四分の一が女性というのが有名な話ですよ。そういうものが全部重なりあってできた。突然どこかがやろうと思っても、そんなにはできないだろうと、私、ビデオを見ながらつくづく思っただんです。これは本当に血のにじむような苦勞があって、そこに花が咲いたんだなあと、とっても感動したんだけど。

星川 これから実がならないとね、これではいけませんと……。

斎藤 いや実はなりますよ、きっと。

田嶋陽子さんがフェミニズムは面白おかしくなきやとおっしゃいましたけど、私はあのビデオを見て宮沢賢治が「革命は歌と居から始まる」と言ったのを思い出しました。その言葉が私はとても好きなんですけど、今までも女のフェスティバルみたいなもので、み

んなが歌ったり踊ったりしましたね。
〈あごろ九州〉なんかでも均等法の時に『花子さん』なんてやってらしたわね。そういうのが全国でお互いシナリオを交換したりしながらますます広がるといいですね。

出演している方たち、みんな自己表現できるから嬉しそうでしたね。奥さんたちが本当に嬉しそうにやってて、ああいうことってとってもいいなと。第一、太鼓から入るところが気に入っちゃった。大太鼓って長い間男の専有物だったでしょ。私、女の太鼓隊を作りたいなあと思ってる。あれは新座だからできるんですよ。東京じゃ、けいこ場がないです。あれだけの音を響かせる場がない。

星川 あのと太鼓は保育園の保育さんと親が始めたんです。河原で練習して。斎藤 全国津々浦々にああいのが広がる、といいなあと思いますね。田中美津さんなんかも「ミューズカル」なん

てやって歌ったり踊ったりしてたけど、もしかしたら新座の活動する主婦の全員が登場したんじゃないかと思うくらいいるんな方が出演してましたね。

星川 四分の一くらい出たんじゃないかな（笑い）。

内田 本当は女性問題の学習をしている人たちはもっといたんだけど、フェスティバルの練習は夜だから時間帯がちよっと違って。ダンスだけ好きだけど、という人たちとか、女性問題は初めてというか、自らが女性問題の渦中にあるとは思ひもなかったみたい。な人たちも大勢かわった。そういうことがまたネットワークになったと思うんですね。

ここで生まれたものに期待

斎藤 そこで問題は、このワットと盛り上がりがあったエネルギーがこれからどうなるかということです。歌ったり

踊ったりするのはみんな好きだけど、そこ社会変革の力とどうなっていくのか。あるいはもっと地味な学習とかデータを集めるということにどれだけ収斂されていくのか。

内田 そういう意味では三つの事業というのはいずれも関係性がありますね。星川 でも、即、勉強するようになるとは思わないわね。

内田 ミュージカル関係の人たちの今後でしょ？ ミュージカル公演として続いて行くわけだから、それだけでは難しいけれど、学習会や本づくりという三つの事業でつながりがあるかなと。ミュージカルだけで「ああ終わった終った」と燃焼しきっちゃう面があるという大きなことをやるとうれやうですね。それが冷静に本を作っているグループとかとうまくドッキングできるかと。斎藤 サポートブックなんかも、自分がサポートされるんじゃないかって、いかにサポートタイプになるかというのが課

題ですね。その辺がどうなっていくのか期待と関心と両方で見守って行きたいなと…。『あごろ』の記事にするというのも期待を込めて見ていきたいという一つの宣言でもあるんですけどね。

新座に女性議員が多いのは

斎藤 女性の議員さんが多いのは、へみずの会」の運動の中から生まれたんですか。

星川 そういうわけでもないんです。各党が、女性候補者を増やそうということで候補者選びをした結果です。昨年からは、自民党をのぞいて各党派に女性議員が入りました。

斎藤 フェミニスト議員連盟が主張するクォーター制は、理論的にはもちろんいいのだけど、日本新党がらみでいま問題になってますね。女なら誰でもいいのかと。

星川 政治って、女だからということ

以外に政治家としてやっていくというところがあるわけだから、もちろんそれは考慮します。女性議員応援団も、出だしは革新女性議員応援団だったのよね。

菅原 ある政党の議員から「革新女性議員応援団」という名はおかしいという抗議を受けまして、「革新」をはずしたという単純な理由です。

星川 新座市の中で、三十人の議員のうち七人が公明党、という事情もからんでいるわけです。

この前の議会の最終日は面白かったですよ。私たちが「アイヌ新法の早期制定を」という議員提出の議案を出したんです。今年は国際先住民年だから…。そしたら、他党の女性議員が同意したり、女性議員同士で質問しあったり。ヤジを飛ばすのはほとんど女性議員だった…。。

斎藤 それはおもしろいですね。へみずの会」でも、推薦した女性議員さん

が初質問する時など、みんなで傍聴したり、きちんとフォローアップしてましたね。そういう積み重ねで（はんさむウーマンの行事が）できたんだあと、ビデオを見て思ったんです。

星川 積み重ねもあるけど、例えばダンスのサークルで特にどことつながりがあるというわけでもないという所にも声をかけ、パッとのとてくれたとか…。そういう意味でみんなわりとのがいいというか…。

斎藤 だいたい何歳くらいの方？ 全

共闘世代？

星川 三十代後半から四十代前半が主流です。

地域の輪が次々に広がった

（小松さん出席）

内田 助産婦の小松さんです。彼女も「働く女性の会」のメンバーです。産院をやる時にみんなで支援したんです。

他にも、いろんな、あれやりたいこ
れやりたいということを会員の中でお
互いに支えあってやってきたんです。
そしていつのまにかそれぞれ形になっ
て。

斎藤 なるほどね。土の下から芽が出
て、花が咲いたんだなア。

星川 〈働く女性〉について書けば、
連続ドラマができるわよね。(一同う
なずく)。

内田 映画ができるよ。

星川 「女のクリニック」目指してみ
んなしてお金集めたり。仲間の明子さ
んの早すぎるガン死もあったし、友と
の別れもあったし……。私も議員になる
時、家を買う金を集めたり……。書きた
いですね、老後の楽しみに。

斎藤 黒須さんは何にかかわってらし
たんですか。

黒須 私は新座のいろんな女の人たち
が頑張ってきた歴史からかなり遅れて
まして。引越して来てまる五年たっ

たところなんですけど、その前は品川
区の戸越にいました。

斎藤 ここにいらしてどうですか。

黒須 ここに引越して来たのを機に、
夫の両親と同居を始めまして、ちよう
どフェスティバルの日に夫の親が亡く
なりましたので、ミュージカルも役を
もらったんですが、私はフェスティ
バルには出られなかったんです。ビデ
オを見て感激してます。

ここへ引越して来て、幼稚園の役
員を一年間したんです。専業主婦なん
で、役員でもしてお友達を増やしましょ
うと思ってやったんですが、その時に
たまたま一緒に役員をした女性が、い
ろいろと地域活動をしている人だった
んです。その人に「新座の女性ってす
ごいんだよ」とか言われて、何年か前
に給食センター化に反対した時の記録
集を、あなたが好きそうだからという
んで貸してくれて、新座の女の人たちっ
てすごい元氣なのねって。この運動を

やっている時にいたかったなと思いま
した。内田さんの勤務している中央公
民館の女性セミナーの企画準備会が公
募されていて、そこで竹森さんと知り
合った。星川さんとは、議員の人がい
るのよと聞いてはいたのですが、たま
たま小学校の保護者会の会費検討委員
会で知り合って、会うべき人にみんな
会っちゃったなという……。入りたい
と思っていた輪の中になんとなく気が
ついたらいたという感じなんです。

ただ、立派だなと思う反面、自分だ
け何もしないという、例えばみんな議
員だったり、職員だったり、助産婦だっ
たり、っていう中で、自分だけ何なの
かしらという揺れ戻しみたいのがあっ
て、元氣になる反面、帰ってくるとい
人でビール飲んで寝ちゃうわみたいな
感じですよ(笑)。

松戸に元氣な専業主婦がいて、「専
業主婦なんて言わないで地域活動家っ
て言ってるわ」って言われて、私もそ

れにしようと言ってたんですが、その彼女とも地域活動家ぶりが何ランクか下がるなという思いがあつて、なかなかそれも名乗れずにはいるんですが。菅原 黒須さんはフェスティバルでずいぶん動いたでしょう。その辺のことを少し……。

黒須 動いたというより、みんながそれぞれ仕事を持って夜しか動けないというんで、昼間もっとみんなの役に立てるかなと思ってたんですが、意外にできなかった。やっぱり一人じゃ結局何もできなくて、打ち合わせするんでも会議するんでも、結局夜になって。できれば練習も昼間がいいとか、会議も昼間がいいとかいう思いもありましたけど、理解のある夫と子どものおかげで……。

内田 昼間やっているPTA活動には働いている女性がなかなかかわれないというのと、今回は、逆の現象というのかしら、主婦の人もいっぱいか

わって、昼間も練習したけど、全体できちっとやる時には夜になった。私たちにとってみれば、だからできた、というところですけど……。

斎藤 主婦の方が、よく夜出られましたね。

星川 ダンスの人など日曜日とかに練習して、その延長みたいなかんじで出ましたね。

内田 感想の中に出てきてたんですけどね、女性問題なんかぜんぜん関係なく生きていて、働いてはいなくて、ダンスなんかでは日曜日も勝手だけ、という人たちが、日中働いて夜こうして来ている人たちと一緒に活動すること、とても刺激を受けたと……。彼女たち、夜なんて大変だなと思ったけど、やってみれば、結構……。

星川 最初は週に一回だったからね。でも『サポートブック』編集長の竹森さんだっけずいぶん夜出てくるようになったよね、前に比べたら。

白井 私は最近関西から越して来たので事情がよくわからないんですが、新興住宅地なんですか、このあたりは。内田 旧住民は一割弱なんです。他の方は新住民。もうそうになってからずいぶんたってます。

星川 この団地がちょうど二十一年たってるんですよ。市制が敷かれてすぐの時ですから。女性議員が出てきたのも新しい人たちの生活が大変なころ、バスも少ない、道路はひどいとか、そういう住民要求から女性議員が出たの。斎藤 新座は東京のベッドタウン。「ダサイタマ」という感じとはちょっと違うのでは。

星川 ベッドタウンとして開発されたけれど、不便なこともたくさんあったのです。

菅原 やっぱ最初は保育園運動から始まったんですよ、女の人たちの…。運動をはじめた人たちの活躍で保育園環境がとっても良くなったんですね。

その後は給食のセンター化反対の運動が起こり、自校方式のおいしい給食を存続できたんです。PTAも市民運動の一つとしてとり組む人が大勢いました。その中で公民館の学習講座というものが並行して行なわれていった。

内田 新座市は、女性問題については、こういうふうに学習を重ねて住民たちの意識がかなり変わってきたと思います。でも行政の方は出遅れてたんですね。前市長の時に埼玉県的女性行政モデル市町村というのがありましてそれに新座市がなったんです。行動計画を作るとか、調査したり、市民会議作ったりとかの事業があるんですよ。ここは十四万都市で行動計画もできてない。遅れてるわけなんです。そういう状況があったので、行動計画もせっかく作るならいいものになりたい、女で活動している人もいっぱいいるから、そういう人たちから市民会議のメンバーが出るというなあという思いもあって、

はんさむウーマンの計画を立てたのね。今後のネットワークの活動は、行動計画に向けて女性施策を進める上で、市民会議のメンバーが力を発揮できればと思っています。それと、二年後の北京国際会議に行きたいないうのもあります。

斎藤 アジア初の世界女性会議ですものね。

内田 『サポートブック』や『はんさむウーマンの記録集』も中国語訳にして持っていきたい。自治体で行くとお金が出ますが、他を当てにしないで独

もみ合う中で芸も深めて

自で行こうと。

菅原 星川さんは今度の企画に全力を出したと思うんですが、苦力話を……。星川 雑用係だよ。表はみなさんにやってもらって地味なところでやろうというか……。

菅原 本人が言わないから私が言いますが、音楽の歌詞を書いて、作曲までして、フラメンコ踊って『サポートブック』の編集を、徹夜、徹夜で、最後までまとめたという……。

内田 フェスティバルには百名ぐらい関わっていたんですが、八十名くらいは表に立ってやった人です。ダンスだけの人、演劇だけの人を、一つの目的あるテーマで結びつけるには、裏方がしっかりしていてこそ……なんです。期限が決まっていますでしよ、だから表は表、裏は裏と割り切ってやった部分もあります。

菅原 「はんさむウーマン」という名前前からして、もういろいろ最初から問題が起こったんですよ。いろんな人が一つのテーマで参加する中で、意見の違いで、かんかんガクガクやりあったことも、終わってみるとなつかしいんでしようが、最後の最後までやりあいましたよ。ミュージカルなんかも

寸前まで変えてましたよね、シナリオ変えたり、歌変えたり。——で結局、当日の出来がいちばん良かった。本番がね。

内田 かなり毎回のように演出が変わったからね。

斎藤 それはなぜ変えたんですか。女性問題を追求するあまりとか…。

内田 芸を深めるあまり、だんだん欲が出てきちゃたの。やってるうちにだんだん見えてくるのね。

白井 本も同じよ。『あごら』作る時もそうですよ。

斎藤 はじめ漠然と思ってるんですが、形にしていくなつてクリアになってきて、ああ、あそこ足りなかったねとか出てくるんですよ、創造というのは。

星川 ただ脚本を作る過程で長い間、六月から十月にかけてぐらいいまできちつと最後までできなかったのは、男と女が共生していく社会というような嘘っ

ばちのイメージがあるわけでしょ。それやんくちやならないというのがすごく苦しくて。男を変えるにはどうしたらいいか、というその解決で、最後パンパイアが一回かんだだけで男が変わるのは安易だし、どういうふうにしたら変わるのかというのをね、それからこういう男を出すかとか…。

あのセクハラ支店長だって二回目の脚本で出てきたんですよ、最初の脚本はわりと単純なストーリーだったんだよね。

内田 役者がどんどん出てきて書き変えたところもある。セクハラ支店長なんか、演技もよかったし、本人も「日本一のセクハラ男をやるんだ」っていうぐらいに悪役をやって…(笑)。

斎藤 男をまき込んだのは良かったわね。

小松 いちばん言いたいのは、どんな形であれ、ミュージカルにしろ音楽にしろ劇にしろ、ソフトにフェミニズム

を語っていくというのがすごく大事だということ。やっぱりフェミニズムだとか女性問題とか聞くと、すぐ顔がキツとなる人って世の中多いでしょ。わかってるんだけど言われたくないっていう。女の中にもそういう人いっぱいいるわけだから、そういうところ

で、そういう娯乐的なものによってソフトに表わしていくという意味では最も良い手段だったなあと思うんですね。だからこれを継続して行きたいというのはありますね、ほんとうにね。仕事を産んでも働いて欲しいということを日頃から言ってるんですけどもね。斎藤 人と人とのつながりが難しかったと思うんですけど、どこでどういうふうにクリアーしたか…。

小松 それほどクリアーしてないんですけどそれぞれが何回もかなりの頻度で話し合いを持ちまして、なんとか歩み寄ったというか…。

市も県も協力したおかげで

斎藤 ここで一つ良かったと思うのは、お金がついたということ。たいていトラブルが起きるのはお金のことから起きるんですね。赤字が出たりするとお金をめぐるトラブルはすごく尾を引くし根が深くなる。だからそういう意味では二百五十万円というのはすごく大きいですね。

星川 いや、一部恨まれてますよ。かなりケチったから。最初に立てた予算ではミュージカルとか芝居のこと知らないから、照明にすごくお金がかかるんだとか、会館の使用料とか（半分は教育委員会が持ってくれましたが）芝居づくりにお金がかかるということをお金がかかってるし、プログラムも作る予定がないのに作ったりしてますから……。

内田 リハーサルも何回もしているけど。その予算は去年やった新潟を参考にして計画を立てたんです。他県の事業もそうなんですけど、みんなでお金出し合ってる部分もあったりカンパし合ってるものもあるんですけどもね。

菅原 内田さんのような公務員とか、星川さんのような議員とかいたから助かった。国・県・市とか役人とのつきあいはなかなかできないですね。

内田 県の教育委員会の人もよかったですよ、担当だった人が私たちのセンスを理解するというか、パッと見てこれはイイですねとか。

斎藤 いちばん良かったことはどういうことですか。

星川 やっぱりみんなが頑張ったことだね。

内田 それぞれ自分のできることを本当にせいっぱいやったんですね、自分で自分のことほめてるよね、みんなね。

斎藤 自分で自分がほめられるほどいいことないですね。

内田 いろんなことあったけども自分の自信につながっているんじゃないですか。

小松 全然予想だになかった人が入ってきて、かなり沢山の人で働けたということが良かった。新聞にのったからかな。

斎藤 それは層を拡げるのにとっても大きな働きがあるわね。

内田 余談になりますが、公民館まつりというのが、昨日おとといとあったんですけど、はんさむウーマンのパネル展示を見て、「これ新聞で見た」とか「テレビで見たミュージカルのことよね」とかいふの。そういう意味でマスコミってたいした力だね。

斎藤 NHKの「はんさむウーマン」でも紹介されたし。

星川 表現に対するエネルギーっていうの？ みんなやる気があるっていう

か、自分を表現したがっていると思

ましたよね、すごく。だからどんなさ
さいな役でもせいっぱいやりたい。
役がついたら歌もうたいたい、踊りも
やりたいとあって、今の女の人はそう
いうエネルギーがすごくありますよ、
それだけでもずいぶん違うんじゃない。
女性問題に関心がなくても、結構うち
では夫と葛藤があったりしてそれが出
て来たり……。

菅原 アンケートの結果かなり前向き
にいいものがいっぱい集まったものね。
その日の落合恵子さんの講演でさらに
プラスという感じで、すごく感動的な
話だったでしょ。あれでまたミュージ
カルの良さが引き立った……。

星川 あれはあれ、これはこれで別も
のだね。

内田 落合さんだから来たという人も
いるからね、それでついでにミュージ
カルを見てね。

斎藤 落合さんも予算のなかに入って

いたの？

内田 いえ別です。そういうのは出な
いんです。文部省ではそういう有名な
人とある程度の人にはお金を出さな
い。今回の地域域の女性の社会参加を
支援するわけだから。

星川 文部省のあの事業はいい事業だ
よね、すごく。普通女の人が何かやる
と、たいがい中央から招いて、講演を
中心に何かやるでしょ。そうじゃなく
て、あくまでも地域の女性指導者を作
るとかいんなのを兼ねて活性化とい
うことでやってるでしょ。

斎藤 文部省は大野さんかしら。

内田 そうです、大野曜さんです。

斎藤 やっぱいい活動がある所には
必ずいい女の人がいるんだ。

内田 婦人教育課も言ってるんですけ
ど、役所から見たら委嘱金の内容はず
いぶんゆるやかなんですね、市民から
したら当たり前かもしれないけど。だ
から財政担当からルーズに思われな

ように是非頑張って欲しいと。

星川 いろんな人が申請するといいの
よね。沢山申請があつてこれは継続し
てやっていかななくてはいけない、必ず
予算もつけなくては、と文部省が思
うように、こちらががんばらなくては
いけないね。

斎藤 ご苦労なさったことは。

内田 必ずしも女の問題を完全に理解
して関わっている人ばかりじゃなかつ
たので、部分的に関わっている人たち
に、この事業の主旨を十分納得して頂
くまで伝えるのが、結構シンドかった
ですね。

斎藤 大変だったでしょうね。でも良
かったですね。とにかくそれを乗り越
えてあれだけのことができて……。

白井 まだまだ伺いたいことがありま
すけど、夜も遅くなったので、ではこ
のへんで。

どうぞますます「はんさむ」にご活
躍を！ 期待しています。

やった！ つくった！

私たちのはんさむウーマンネットワーク

昨年一月、新座市内のM公民館で十一年間にわたって毎年開催されてきた働く女性のための講座が、翌年からつぶされてしまうという情報が入ったのが、今回のはんさむウーマンネットワークを結成する発端だった。

一九八一年にM公民館で「働く女性の講座」が開かれた時に、受講者の有志で〈働く女性の会〉を結成。それ以降、会員は毎年、講座の企画にも積極的に関わってきたので、突然のことに驚き、早速一年前にその館長になったK氏に真意を問いただしたところ、「長い間やってきたし、参加者も少ない。T館でも働く女性を対象に講座をやり始めたので、もうウチの館ではやらない」とのこと。

十一年の積み重ねのあるM公民館の「働く女性の講

座」は、プログラム内容もユニークで大変おもしろいと、県内外からも視察に来るほどであった。〈働く女性の会〉は、六年前、講座のプログラムの中に「働く女性の夫育て」を企画し、広報に載せようとしたところ教育長から「夫を育てるとは差別的表現である」とクレームがつき、逆に、会主催で「働く女性のラクラク夫育て」というシンポジウムを行なって市教育委員会と対決したという元気印の会。今回の講座つぶしは、いままで保障されてきた働く女性の学習する権利を侵害している、絶対に受け入れられないと、再三、M公民館と市教育委員会に申し入れを行なった。

ちょうどその頃、文部省が「女性の社会参加支援特別推進事業」を行なっており地域の民間女性団体の事業に委嘱金を出すということを知った。公民館がだ

めなら文部省があるさ」と、早速三月に行なわれた昨年度の事業報告会に会員二名を送り込んだ。その時見た新潟の女性たちによるミュージカル風パフォーマンズのビデオに感激。「これやりたいね。これなら私たちにもできるかも」と、

一、創作ミュージカルの上演

二、働く女性のセミナーの開講

三、女おたすけ本の作成

と、欲張った計画をたて、市内の女性問題に関心のある団体、個人、そして特にミュージカルの舞台に乗りそうなダンスや演劇グループにも声をかけ、十六団体で〈新座はんさむウーマンネットワーク〉を組織した。

この事業の窓口を女性問題学習を積極的に手がけていたT公民館に依頼し、県教育委員会の推薦を取り付け文部省に申請したのが三月末。前述の働く女性の講座つぶしの件は、再三申し入れし、市議会でも女性議員から一般質問が出され、教育長からついに「例年どおり開催する方向で検討する」という答弁を勝ち取った。私たちの要望が通ったわけである。ヤッター！

私たちは、前述の三つを「三本柱」として、三つの委員会を、さっそく発足させた。

一、セミナー委員会

二、リサーチ委員会

三、フェスティバル委員会

とりあえず、第一目的であった働く女性の講座の開催までこぎつけたので、早速、講座の企画を練り始めた。同時に文部省の委嘱が決まらなくてもミュージカルは是非やってみたい、公民館まつりに発表してもいいし、ということとで脚本作りも始めた。

日常生活の中で、何げなく交わされる言葉や行動の中にどれほど多くの差別があるかということとを、今までの講座や例会の中でさんざん取り上げてきたので、脚本のネタはいっぱい出てきた。それをストーリーとしてまとめること、一つ一つのセリフの言いまわし、そしてストーリーの結末、女が変われば男も変わるというシーンが、そんな甘いもんじゃないという現実を出しつつ明るい未来が展望できるしめくり方に難航した。(各委員会の状況は後述する)

まづ合宿して脚本を練る

というわけで五月二日、三日の連休に嵐山の国立婦人教育会館で、〈働く女性の会〉は、はんさむウーマンネットワーク成功のための強化合宿を行なった。

テーマは、ミュージカルの脚本固め。それまでもいろいろな案が出ていたが、これだ！という決め手になるようなアイディアは出ていなかった。しかし、合宿では運命の出会いが待っていた。息抜き用に行っていたトマス・ハリス原作の『羊たちの沈黙』のビデオ、あの主人公の血みどろのシーンに、メンバー全員がショック！

「女性問題を広く訴えるならやっぱりこれぐらいインパクトがなきゃね」

「血といえば吸血鬼、吸血鬼といえばドラキュラ、ドラキュラは男だから女の吸血鬼だったらヴァンパイ

アってどう？」

「吸血鬼を増やして、めざめた女たちで世の中変えよう男を変えよう！」

お酒と眠気でモローとしていた脳裏にもヴァンパイアたちがマントをひるがえしながら夜な夜なかみつき、フェミニストを増やし続ける姿が……。

この強化合宿が、後の活動が盛り上がる源泉になった。

*

合宿で大スジが決まった脚本も、最後の結末が決まらず、ミュージカル仕立てにするには、どこで唄って、どこでセリフを、どこで踊れば効果的かなど、本当にズブの素人とはこのことかと思うぐらいわからないことだらけ。それでも、「男女平等社会をめざして、世

の中に訴えよう、女も男も変わろう!」という私たちのメッセージを伝えたい一心で、シーンごとの細部には、あれを入れよう、このセリフを入れようと、細部のみがふくらむ毎日であった。そしてついに脚本が固まらないまま九月八日のミュージカル練習のスタート日を迎えてしまった。

ミュージカルのキャストとスタッフ合わせて六十余名、木曜日の夜七時半〜十一時、十二月からは土、日も練習と週三日で合計四十回以上の全体練習とシーンごとの部分練習を加えると、毎日がミュージカル、毎

日ははんさむウーマンしていたとは参加者の弁。

ミュージカルだから当然のごとく歌あり踊りあり。盆踊りや学芸会のお遊戯しか経験のないみんなが宝塚ばりの作品をめざし、いや内容はそれ以上のグレードにと意気込みだけは相当なものであった。

当然モメた。芸術論、演劇論の違い、女性問題の認識のズレもある。ついには役を降りる男も。

しかし去るものは追わず、来るものは拒まず。新聞四紙にも掲載されたこともあって、関心を集め、参加者も増えていった。

ネットワークのホントのスタート

待望の文部省委嘱が六月八日に決まり、それを受け

て、本格的な組織づくりのスタート。市教育委員会と

新座市の後援を取りつけ、新座市の女性にとって記念すべき「新座はんさむウーマンネットワーク会議」を六月十三日に行なった。

当日の参加団体は次のとおり。

新座働く女性の会

女性がのびやかに生きられる社会をめざして、学習会や講座の企画を行なっている。

女性問題研究グループ

公民館の講座終了者たちのグループ。女性問題の学習を通して、新座の女性の地位向上を目指す。

ボーヴォワール『第二の性』を読む会

第一巻から読み始めて五年。難解な翻訳に苦しみながら、自らの生と性をも重ねて、精読している。

女性セミナー準備会

公民館講座の企画準備をしている会。

良いお産を考える会

自然分べんを進める助産院を中心に活動。

女性議員応援団

新座市議三十名中女性議員が七名おり、二三%の比率は全国でもトップレベル。女性の声を政治にと、応援している。

市民劇団「にい座」

公民館の演劇セミナー終了者で一年前に結成。ミュー

ジカル初挑戦。

現代詩グループ「しずく」

公民館の現代詩講座から生まれた。月一回創作発表会を行う。フェスティバルでは「時代に挑んだ

女性の言葉」を朗読。

トークハウス「すずらん」

障害者のための車いす貸与と、自由な話し合いの場を提供している。今回、舞台で朗読に初挑戦。

ワーカーズコレクティブ「豆の会」

生活クラブ生協から派生した、自主運営、自主管理の主婦のお弁当屋さん。老人給食もしている。

くれない太鼓

保育園の父母と職員で和太鼓を始めて五年。地域の敬老行事や夏祭りと、ひっぱりだこ。

フラメンコ新座の会

公民館の講座から生まれたグループ。

ジャズダンススタジオS&K

ダンス好きの学生、OL、主婦の集まり。ミュージカルの振り付けも担当。

新座おやこ劇場

年八回の舞台芸術観賞と、キャンプ、合宿子どもまつりなどを行う。

これらで、さっそく、三つの委員会を発足させた。

三つの委員会活動

◆セミナー委員会

〈働く女性のためのはんさむウーマンセミナー〉

国際婦人年からスタートした新座市の女性問題学習は、十七年と長く、その学習内容は定評がある。市内八か所の公民館、コミュニティセンターでは、「女性セミナー」「働く女性の講座」等々、特色ある学習講座が市民の手で自主的に企画・運営されている。そんな土壌があり、経験も豊富にあることなので、セミナー開講は、他の二つの事業と比べるまでもなく、さして困難もなく、進行了た。

この「はんさむウーマンセミナー」は、地域の人材の発掘と育成という目的を持っていたので、講師には地元で活躍中の女性たちをお願いした。(市内および隣の朝霞市在住の方々)。友人や近所の顔を見知った

人が講師になっているということで、興味深かったらしく、夜間の講座であったにもかかわらず、出席率もよく、公民館職員が「夜間の講座にこんなに多くの人が参加するなんて、すごいですね。初めてですよ」とびっくりするくらいの盛況ぶり。講師の面々にとっては、リラックスして話ができ、学習会という形式ばったものではなく、毎回かなり活発なディスカッションの場となるという効果があったようだ。と同時に、人手不足で大忙しだった他「事業(リサーチ・フェスティバル)」の協力者となってくれそうな人がまだまだいっぱいいるじゃない、と事務局に元気を与えるという大きなうれしい「おまけ」が付いた。

実際に受講者の中からミュージカル女優へ華麗に転身(!?)した人が数名、サポートブックに情報提供し

働く女性の

はんさむウーマンセミナー

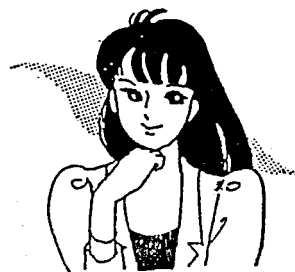
～時代の風をうけて～

90年代は「はんさむウーマン」の時代。

生き生きしなやかに、社会のあらゆる分野へ広がる
女たちの動き。

時代の風は、私たち新座の街にも――。

地域に暮らす、職場で働く、女たちから女たちへ。



回	月 日	内 容	講 師
1	9月18日 (金)	フェミニズムとの出会い －ウーマン・ラヴィンガー	東京大学社会科学研究所助教授 大 沢 真 理
2	9月25日 (金)	ハイテク社会をしなやかに生きぬく －OA化と働く女性のストレス－	関東学院女子短期大学講師 中 野 千 枝
3	10月2日 (金)	自 分 流 情 報 活 用 学 －自分さがし－	インフォメーションプランニング代表 結 城 美恵子
4	10月9日 (金)	女 た ち は 一 生 懸 命 －ワーカーズコレクティブの試み－	豆の会 森泉康子・中村由起子
5	10月16日 (金)	ドキュメンタリービデオ 女達が語る70年代	ビデオ作家 栗 原 奈名子
6	10月23日 (金)	ウーマンリブからフェミニズムへ	会社員 舟 本 恵美子
7	10月30日 (金)	働く女性のキャリアアップ －女性管理職への道－	元 ちふれ化粧品美容部長 野 中 美 希
8	11月6日 (金)	思い立ったが自立どき －50歳からの就職－	フリーエディター 竹 森 絹 子

☆ このセミナーは「新座はんさむウーマンネットワーク」が企画し、講師には
新座市・朝霞市在住の女性をお招きしました。

ケートから

いきいきした内容で、元気づけられました。一生懸命が目に見えるよう
です。会場からの意見も、ユニークで楽しかったです。

元気の素になります。実体験にもとづいたお話は、とても内容があり引
き込まれました。最後の皆さんとの話し合いも楽しく、参加しているとい
う気持ちになり、とても良いと思いました。

50歳からの自立ということ、少しずつ準備をしてきた上でのスタート
ということが良く分かり、やはり意識が大切だと思いました。



専業主婦から自立を決意して、努力され現在の地位を獲得された竹森さ
んに敬意を表します。仕事はあと何年と区切らず、もっともっと永くご活
躍ください。

新座市における女性問題の取組みは、県内でもかなり進んでいると思い
ます。講義内容が素晴らしくこれだけで終了するのはもったいないので、
ネットワークを作ることを希望します。





受講者のアン

女性だから、男性だからと区別することがどうも気になります。先生が「マンヘイティングにたくない」とおっしゃったこと、人間として共存していく考えに賛成です。

男性が一人でも参加されたことを、うれしく思いました。できればもっと多くの男性にも一緒に聞いて欲しいと常に思います。夫にも勿論。

胃腸関係の弱さから時々じんま疹がでると思い込んでいましたが、もしかしたらストレスだったのでは……。仕事とプライベートに一線を引くことがストレス解消になるのではと自分のことを考えながら思いました。

討論する場を作ってくださる講師の方の進め方、良かったです。



毎回、自分の活力になっています。このような良い講座に、もっと多くの女性が参加できると良いですね。

いつも参加していますが、後半のみんなとの話し合いがいつもとても興味深く楽しく聞いています。今日も楽しかったです。講師の方も良かったのですが、参加する人たちの考え方もとても共感できていつも楽しいです。



前向きに生きる姿勢が、いかに女性を美しくさせるかということを野中さんのお話を通して実感として受け止めることができた。参加者のさまざまな意見が聞けたこと、とても収穫でした。

てくださった人々は数え切れないほど。残念だったのは、男性受講者が一人しかいなかったことくらいで（彼は計八回欠席なしの皆勤賞ものだったが）はんさむウーマンネットワーク事業は、幸先よく、そのスタートをきった。

◆リサーチ委員会

『にいが女性のサポートブック'93』発行

自分のこと、家族のこと、教育環境のことなどなど日々知らないこと、困ったことにぶち当たる。そんな時、気軽に手に取れるハンディな「お助け本」をつくりたいと長い間企画そのものはあためていた。ただ資金がなく、具体化できずにいた。それがやっと実現する、と張りきったものの、一冊の本（A五判一三六頁）をつくることは、まあなんと時間と体力を消費するものか、知らなかった。

まずは項目立てだが、知らせたいこと、書きたいこととは山ほどある。あれもこれもとアイディアが噴出する。それをいかに整理しまとめていくか、連日連夜(!)

の編集会議。ここには目次しか紹介できないが、どうですか？ 盛り沢山でしょ。

編集委員のそれぞれが得意分野を担当し、書き進めていったが、書き込みが足りない、もっとわかりやすく書けないか、とカンカンガクガク、にぎやかに作業をしていた。

たとえば――

「この本のタイトルどうする？」

「お助け本でいいんじゃないの」

「誰か私を助けて！ って情けない感じがしない？」

「データブックは？」

「データじゃ見えてこないところを書きたいわけだから」

「サポートブックはどう？」

「サポートと助けるのってどちらがうのかしら」

「支えるのと手を差しのべて助けるのとではちがうわね」

などと時間をかけて話し合いながら『サポートブック』に落着し、原稿書き、編集、ワープロ作業、イラ

にいざ 女性サポートブック'93

女のライフプラン

男女平等教育／性の商品化／結婚／離婚／夫婦別姓／母性保護／性別役割分業／高齢化社会と女
女の心とからだ

思春期と性教育／妊娠と人工中絶／出産／更年期／エイズ／レイプ（強姦）神話
働く女たち

男女雇用機会均等法／産前産後休暇／育児休業法／看護休暇／セクシュアルハラスメント／派遣労働者
子育て＝親育ち

学童保育／育児と子育て／予防接種／就学児検診／不登校・登校拒否／学校給食／PTA／あそび
元氣の出るくらし

自然食品／消費者運動／リサイクル／まつり／映画／テレビ／化粧品／身近な女性議員たち
女と学び

女性問題の学びの場／公民館・コミュニティセンター／女性問題学習グループ／市内大学公開講座
新座の自然と環境

武蔵野と野鳥／屋敷林／生産緑地／有機農業／公園・緑地／大気汚染／ゴミ問題／環境アセスメント
座談会・はんさむウーマンをめざして

●女・男の自立度チェック表／差別語コーナー／女子差別撤廃条約

スト、さし絵、版下作りと全作業を自力でする忙しさと充実感。しかし、みんなタフですね。

編集にあたっては、読みやすく、わかりやすく、役所が作るような、とおり一遍のものにならないように、自分たちの「ことば」で書くことを心がけた。

◆フェスティバル委員会

時代に挑んだ女たちへ女のフェスティバル開催

はんさむウーマンネットワークの集大成として、ひとつドーンとおまつりをしましょうと企画したのが「にいざ女のフェスティバル'93」。

二月七日(日)新座市民会館は、大勢のスタッフとキャストの精気に包まれ、「いやいや新座の女たちは元気だぜ、うれしいね」という感じだった。

特に創作ミュージカル「ヴァンパイア・ショック」は、脚本・演出・音楽・大・小道具・衣装などなど、その舞台作りの全てが手作りのオリジナルで、ましてその道のプロは一人もない素人の大集団。スムーズにコトが進むわけがなく、阿鼻叫喚、バリゾウゴン、

丁々発止、切磋琢磨。酒池肉林だけがなかったわ、そういうええ。

ネットワークをつくる大変さは、覚悟はしているもののやはりかなり体力を消耗する。参加団体十六団体という大所帯は無論楽しい集まりではあるけれど、その交通整理はかなりハードな作業である。

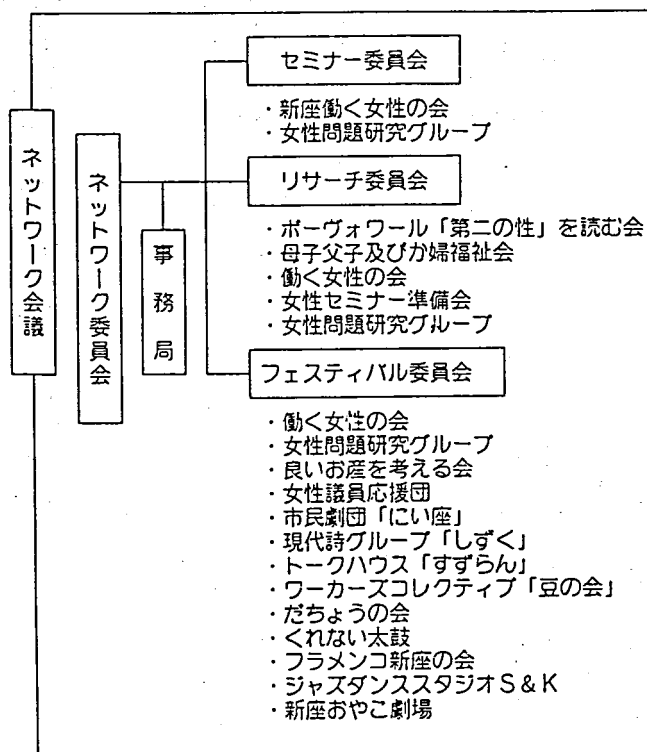
自分たちの力でみんなの合意で、という民主制は、時に優秀な司令塔のいない、試合中途方にくれてしまうラグビーチームのようだ。ものを作りあげていくことのすばらしさは、当日の参加者の感動の涙が物語っていると思われるが、ここに行き着くまでの困難と時折襲ってくる虚脱感。とにかくこのまつりに費やしたエネルギーは、大したものだ。しかし、それぞれが自分の能力を十分に発揮し、新しい可能性に気づき、協力し、支え合う、これぞはんさむウーマンネットワークの目指すところであるわけで、そうした意味でこのまつりは、ネットワーク事業の集大成となる、と、努力を重ねた。

ネットワーク事業の組織

事業名 「新座はんさむウーマン」ネットワーク
 実施主体名 新座はんさむウーマンネットワーク

実行委員会 組織構成・運営

<組織構成>



<運 営>

- ・ネットワーク会議（全体会） 2回開催
- ・ネットワーク委員会 2回開催
- ・セミナー、リサーチ、フェスティバル各委員会は必要に応じて開催

やったア！ 私たちの“女のまつり”

一九九三年二月七日（日）、快晴なれども風強し。今日は埼玉県新座市始まって以来の“女のまつり”。

国際婦人年が始まった一九七五年、新座市に本格的な女性問題の学習が行政の手でスタートした。あれから十七年を経て、市と市教委の後援のもと、女たちが一千席の市民会館を埋めようとする日が、ついに訪れたのである。

開幕二時間前まで、そこらの工事現場のベニヤ板が立っていただけだった。それがどうやら白い布で覆われて、背景らしくなってきた。そう狭くはない舞台と舞台裏、楽屋に人がひしめいている。何しろ裏方含めて百人以上の人々が、出番を待っているのだ。一時から二時四十五分までの間に、百人のパフォーマンス。プロの演劇集団でも、こんな多人数の舞台はさばき

れなからう。

午前中にフェスティバルの全行程についてリハーサルが一度ずつ行われた。実はミュージカルとそれ以外のパフォーマンスとの時間調整など、まったくやってこなかった。みんな、ただ一度の自分の出番のことだけに必死になっているのである。

まつりの一番の呼びものは、創作ミュージカル「ヴァンパイア・ショック」。

女優気分の出演者諸姉、朝から楽屋にこもったままドラン化粧に余念がないけど、準備はOK？ 本番直前のリハーサルで、完全癖の演出担当者がまたも変更したシーン、ちゃんと頭に入ってる？

開幕を待ちながら、ワーカーズコレクティブ〈豆の会〉から届いた弁当をほおばり、お互いの化粧や衣装

の変身ぶりを上機嫌でほめあう。

あまりの強風に正午頃市民会館前に並んだ観客をホワイエに入れた。友人知人から花束が届きはじめ、楽屋はいっそうはなやぐ。気分の上揚も限度に来る頃、本番の幕が上がった。

オープニングは元気に和太鼓そろい打ち。新座の保育園保護者と保母さんのグループ活動から生まれた、ほとんど女性ばかりの〈くれない太鼓〉が、十分間。これから始まる競演への期待をいやがうえにも高める。途中入場者も、きつと舞台に集中できるだろう。トッポを和太鼓にしたのは成功だった。

気合いの入った太鼓の嵐が静まると、本日 of 総合司会の野中さんが、大輪の牡丹があふれんばかりの笑みを浮かべて登場。さすが企業の元部長。大勢の部下を前に講義した職業経験ゆたかな六十九歳の面目躍如。

続いてスライドと朗読。明治・大正・昭和の歴史を生きぬいた二十七人の女子たちのプロフィールをスクリーンに大写しにし、車イスの井浦さんと三人の現代詩グループ〈グループしずく〉が、女子たちの歴史的発言を

読む。時には共感に声ふるわせながら……。暗い時代を象徴するチェロの音色が響く。二十八人目は元気に、われらが〈新座はんさむウーマン〉だ!! 私たちは「女の未来は私たちの手で」としめくくった。

さて、ピタリと降りた緞帳。何が始まるのか。観衆が耳目をそばでとると、NHK朝の連続ドラマ「ひらり」のテーマ曲が始まった。歌が始まって何秒か。アレレまだ緞帳が上がらない。ほんの数秒かのタイムラグ。舞台裏では第一暗幕が背景のパネルにひっかかって外れない。ハプニング! 息を呑む間にやっと幕あけ。主役の主婦役藤嶺さんは、客席に背をむけて弁当をよそう動作をしていて、緞帳が上がったのを知らず、ふと背に空気と視線を感じてふりむき、「アッあいてる、と思った」と後日話した。がその時の彼女はまったく堂々たる主役の演技、とみえたから大したものだ。「女性解放の象徴」吸血鬼になったカミィラの話。伏線として入れ、吸血鬼になる意味をまず観客の頭の片すみに押しこむ。

パート主婦の妙子さんが身体に異変を感じながら下

手に去ると同時に、華やかなフラメンコの踊り手たちが登場。即紗幕が降り、場面転換にとりかかる大道具のメンバーたちの動きはすばやい。フラメンコの踊り手たちは半年前から公民館で講座を受けた俄かダンサー。かなしいかなその下手さ加減にあきれた演出からカットの指示を受け、スペインの代表的な踊り「セビジャーナス」が一番で。手づくりの衣装と化粧が暗い照明に映える。朝のキッチン・シーンから情熱のフラメンコへの鮮かな転換に拍手が湧く。と、紗幕の向こうにマントをひるがえし両手をひろげたヴァンパイアの姿が。変身した主婦が解放の喜びに高らかに大手をひろげているのだが、客席の幼児が「怖い！」と泣き出した。客席の笑いとともにミュージカルは佳境に入る。

歌もよし踊りもよし。女たちは次々吸血鬼へと変身。「偏差値五〇」の主婦も、「人生の午後」に飽きた有閑不倫妻も、クリントン夫人に負けないキャリアウーマンも、ブリッコ〇〇も、みんな自分探しの旅に出る。「女がこの頃ヘンだヘンだ」と歌い踊る男たちを尻目に。

上演一週間前に振り付けができた男のダンスはなかなか愛らしく、拍手を浴びた。すっかり客席も舞台も溶けてひとつになっている。女の状況が変わり、世界に跳りようするヴァンパイアをシンボライズしたジャズダンスの群舞が、圧倒的迫力だ。

ミュージカルは一気にクライマックスへ。劇中唯一の「醒めた女」お掃除のおばさんが、ピリリと箴言ならぬ俳句を詠んで舞台を引きしめながら、ラストシーンへと観客を誘う。ほうきをふりまわしながら歌うは、山本リンダばりの「男を信じちゃいけないよ」。知らず手拍子が場内の興奮を高めてゆく。と、紗幕が上がってセクハラ支店長が前面へ。実に憎々しいマッチョマンを演じるのは「悪役大好き」人間。「影の主役」を任じている彼はノリに乗っている。ホントに〇〇のオッパイをつかむのでは、と一瞬間係者をハラハラさせた（実は〇〇役が迫真の演技を望んだのだという）。

大団円は、最後まで脚本が遅れた場面だ。男たちが咬まれてヴァンパイアになる。女は一度咬まれてヴァンパイアになる。女は一度咬まれたらすぐに変わるが、

男は一回じゃダメ。六十分以内に女と男の共生社会実現まで話をつくるのは土台ムリ。可能性を暗示して終わろう、というわけで、大道具、小道具、演出家も含め七十人以上の出演者がテーマ曲を歌い踊る。「生き方変えよう。新しいこと始めよう」と客席に呼びかけるハートフルなエンディング。フィナーレのあいさつで、主役が手を挙げたら、一斉にライトが集中。「ああ今私はスターなのだ」。彼女はそう思ったという。

三時からの落合恵子さんの講演に間に合うよう、タイム・コントロールは秒単位だ。カーテンコールもないあわただしさのうちにミュージカルは終わった。

続いて女性問題研究会によるクイズ・パフォーマンス。「ぬれ落葉」を漢字で表したら？ と男社会に皮肉をこめて、五分間のクイズは進行役のソフトな語り口に、気持ちがいやらぎながら終わった。

最後は、新座市議会七人の女性議員の顔みせ。新座には〈女性議員応援団〉なる女性グループがあるのだ。議員には一人一分のスピーチを、とパンダ並みの扱いだった、「政治きらい」に陥りやすいこの種の催し

に來られてよかった、と感激した議員もいた。

こうして四時間の「女のフェスティバル」が幕を閉じた。「おめでとう大成功」の打ち上げ会場が大いに盛り上がったことは、言うまでもない。

当日のアンケートにもたくさん賛同の声があり、わたしたちのメッセージを多くの人が確かに受け取ってくれたのだ、という手応えがあった。

リサーチ委員会苦心の『サポートブック』も、読みやすかった、おもしろかった、ためになった、イラストがステキ、と評判も上々で、あの徹夜の日々が報われたと、一同大喜び。そして早くも、ボランティアの項がない、掘り下げがたりない等々、'94年版、'95年版を作りたいと燃えている。

これからの「はんさむウーマンネットワーク」は、ミュージカルの再演、サポートブックの再版、セミナーの継続を目標により多くの人々とゆるやかなネットワークをしていこうと、気持ちも新たに、「はじめの一步」を踏み出そうとしている。お楽しみはこれから。どうぞ、よろしく!!

時代に挑んだ女たち

女が女であることを、
私が私であることを、
高らかに謳いながら、
道を拓いてくれた
明治、大正、昭和の女たち。
女たちが速なりつつ生き、
つくつてきた歴史の上に
私たちが20世紀末の女たちが
生きています。
とびきり新鮮に、自由に生き、
時代に挑んだ女たちの語った言葉を
聴いてみましょう。

ジョジョ企画カレンダー
「姉妹たちよ」から

岸田 俊子

我が親しく愛しき姉よ妹よ
旧弊を改め、習慣を破りて、彼の心
なき男らの迷いの夢を打破りたまえ
や

若松 駿子

われら結婚せりとひとは云う
また君はわれを得たりと思う
然らば、この白きベールをとりて
とくとわれを見給え

荻野 吟子

医は女子に適せり
むしろ女子特有の天職成り

福田 英子

妾が過ぎ来し方は蹉跎の上の蹉跎な
りき。されど妾は常に戦えり、蹉跎
の爲にかつて一度も怯みし事なし。
過去のみといわず、現在のみといわ
ず、妾が血管に血の流るる限りは、
未来に於いても妾はなお戦わん。妾
が天職は戦いにあり、人道の罪惡と
戦うにあり。

荻野 須賀子

人が私を見る価値如何などはどうで
もよい。私は私自身を欺かずに生を
終わればよいのである。

与謝野 晶子

山の動く日来たる。
かく云えども人われを信ぜじ
山は姑く眠りしのみ。
その昔に於いて
山は皆火に燃えて動きしものを。
されど、それは信ぜずともよし。
人よ、ああ、唯これを信ぜよ。
すべて眠りし女
今ぞ目覚めて動くなる。
一人称にてのみ物語かばや。
われは女ぞ。
一人称にてのみ物語かばや。
われは。われは。

平塚 らいてう

元始、女性は実に太陽であった。
真正の人であった。

伊藤 野枝

新しい女には新しい女の道がある。
新しい女は多くの人々の行止まった
処より更に進んで新しい道を先導者
として行く。

遠藤 清子

我々は母の体内に於いて性の区別を
受くる先きに人類の種として宿った
ことを云つて置きたい。然して後に
性の区別を受けたのであることを云
わなければならぬ。我々は人類の
中の女性である。女性という人類で
はない。

松井 須磨子

私はただ
私として生きたいと思う。

神近 市子

人間の行為は、それが事業であらう
が、凡てその全人格を反映する。

三浦 環

恋愛にたいしても芸術にたいしても
まったく情熱のありつたけを傾倒し
なければ生きてる甲斐がない。

山川 菊栄

要するに恋愛の自由と母性に対する
選択権とは、婦人解放の最も基礎的
な二大要素であります。

高群 逸枝

結婚制度こそは、恋愛の自由をさま
たげる唯一のものであった。

高橋 くら子

婦人参政権獲得運動とか婦人解放運
動は、男女間における水平運動であ
ると存じます。

人見 絹枝

私は日本を代表したのではないのだ
人見個人としてブラハにいったのだ

市川 房枝

婦選は健なり。

奥 むめお

いつでもどんな時でも働く婦人は朗
らかに笑い、楽しみ、そして堂々と
怒り、悲しみたい。

山高 しげり

どんな小さいことでも、自分たちの
力で解決したとなると、自信が生ま
れてくるものです。

及位 野衣

男だけの空じゃない。

杉山 千代

女が井戸端会議で、もつと政治や社
会の話をするようになったら素暗ら
しいじゃないですか。

猿橋 勝子

女性が自らの人権を主張するのは、
あたりまえのことである。

田中 絹代

欲する道を選んだまでです。

丸岡 秀子

女の気力は生半可であってはならな
い。

淡谷 のり子

いくら権力で圧迫しても、歌は生き
ている。

小西 綾

女 あんたが主人公やで。

平林 たい子

女よ、未来を信ぜよ。

新座はんさむウーマンネットワーク

女の未来は私たちの手で、



吸 血 鬼

VAMPIRE

ヴァンパイア・ショック!

Shock!

創作ミュージカル

脚本から

(キッチンの場面)

ふつうのサラリーマン家庭、偏差値50の五人家族の朝の光景から始まります。

夫 「帰る時間? そんなもんわからん。子供のことはおまえにまかせてるんだから。一日中なにやってんだ?」

妻 妙子 「昨日はバート、今日はフラメンコ」
夫 「変な踊りで時間潰したり、バートではした金稼ぐより、娘の監督をしつかりしとけ」と言いながら、妻より娘に目がない夫。夫より息子を溺愛する妙子さんのすれちがい。知らん顔を決めこむ姑の妙子さんは老後の生きがいに、社交ダンスに余念がありません。

妙子 「え? 不幸かって? 別に。幸せ? 別に。こんなんでしょ、女の人生って。普通が一番。偏差値50くらいが気楽でいいのよ」

ふと朝刊をのぞきみると、バルカン半島のある村で主婦が酒乱の夫と放蕩息子との首筋を喰んで吸血鬼になり、トランシルヴァニア山脈を越えて飛んでいったという記事が目に入ります。なぜか胸キュンとなる妙子さん。――現代に蘇った吸血鬼は女性解放の象徴……と現地の女性グループが声明――
ねエ。

妙子「あたしもなりたいな」

夫「何をバカなこと言ってるんだ、出かけるぞ」

妙子さんもあと片付けしながらフラメンコの練習に出かけようとして、身体がむずがゆくてたまらなくなりました。フラメンコの仲間たちと踊りながら、ついにかゆくてたまらず、うずくまる妙子さん。あっと驚く間に吸血鬼ヴァンパイアに変身、すつくと立ち上がった妙子さん。

〔ブティックで〕

地元ではちょっと高級なブティック。優子さんはなじみの上得意。ウィーンにオペラを聴きに行った帰りに立ち寄り、土産をブティックのママ紅子に渡す。

派手なネクタイ。

優子「あー、ごめん。それは彼のだった」

紅子「彼？ダンナさま？」

優子「まさか、こんなしやれたの。それにダンナを彼っていう？結婚25年の妻が。決まってるじゃない、いわゆるつばめよ。……

あなたも恋人つくるのよ、しんきくさい母子家庭やってないで。命短かし恋せよおばさん。あなたなんか離婚して、ひとりで誰の世話にもならずにこうして立派にやってるんじゃない。やっと純愛ができる条件が整ったのよ。いい？食わしてもらう必要ないでしょ？子供生む必要ないでしょ？愛だけよ、純粹に愛だけで男の人とつきあえるのよ」

紅子さんは有閑マダムの繰り言にとりあわず、シングルマザーとしての自立をうたいます。なおもおしゃべりしながら帰る優子さんを吸血鬼に変身した妙子さんが襲いました。

喰まれて自らも吸血鬼に変身した優子さん、優雅に暮らしていると信じていた自分が、本当に求めていたものは何なのか考えこんでしまいます。

優子「あたしもかわいそうなおばさんなのよ、あなたに喰まれてはつきりわかったの。あたしは何者でもない、だれにも必要とされてないってことが、さびしい」

妙子「あたしはあたしってこと、もうこれからは自分のために生きていくの。母のままで死ねません。妻のままで死ねません」

優子「愛人のままでは死ねません。カルチャーおばさんのままでは死ねません」

〔夕日商事 営業部〕

久保田さんはバリバリの有能な係長、冷凍寿司の企画書を部下の男性に作り直させています。『5時から0時』の坂田さんにコピーをとらせませす。

坂田「あ、4時半だ。さらさらさらさらお茶漬けさらさら、残業するほどヒマじゃない。変ね、かゆいわ、仕事のしずきかしら」 それをみて

久保田「うちの会社の連中って、若い男は言われたことしかしない。若くない男は、停年までどうやって身を守るかしら考えない。若い女はどうせあたしなんかでいい。ちゃんとした仕事してるのはあたしだけ」

久保田「そうよ、あたしも勿論吸血鬼。なぜかって、きまつてんじやん、あたしがバリバリのキャリアウーマンで、男の部下を怒鳴っていい気分だと思ってんの？」
冗談じゃないわよ。見たでしょ？男の上に立つて事は、針のムシロ。男はね、いや女もだわ、女の上司にがまんできないの、けっこう辛いものよ、出世するって」

いままで部屋の掃除をしていた掃除のおばさんが、フツと身を起こし、つぶやきます。おばさん「過労死の栄光がほしいの。パソコンよ」哲学的風貌のおばさん、ただ

久保田「黙れ！均等法！そうよ、子供が熱があっても座薬をお尻につっこんで、しらんぷりして保育園に預けたわよ。それ

坂田「だからあたしはアホOLやってるんですよ。それよりかわいい女やって、いい男みつけて。ご希望どおり演じてみせますわ」

久保田「それでいいのか？ポ－ヴウォールに恥ずかしいのか？市川房枝に申しわけないと思うのか？私らが何とかな一年間の育児休暇が去年からとれて、

坂田「エラーイ、係長。本当はあたしだって仕事があったいんです。でも出る杭は打たれるでしょ」

そして、他の女達からも日頃変だと思つてゐること、不満に思つてゐることが噴出。そこへ、先程の四人が登場。

さて、女たちはどう変わったでしょう。

お弁当屋よ。将来は老人の食事サービスもやってくつもり」

夫「女どもになにができるか！」
妙子「みてらっしゃい、あなたと遊んでる



・創作ミュージカル「ヴァンパイア・ショック」

暇ないわ」

優子さんは車イスの老婦人と公園に散歩。

ボランテアを始めました。

会社では。5時に退社する久保田係長と坂田さん。

課長「どうしたんだ？ 冷凍寿司の売込みは？」

久保田「あれはやめました。安全性が確認されていませんわ。代わりにフィリピンのネグロス島のバナナを納入します。坂田さんが立派な企画書つくりましたから」

課長「本当に君がこれをつくったのか？」

坂田「もちろん、でも久保田係長みたいにキリキリのキャリアウーマンになる気はありませんわ」

久保田「あたしも仕事と家庭のバランスを考えることにしたのよ。過労死は犬死にですわよ。今から帰れば、保育園のお迎え、ちょうどいいわ」

ある日の市役所戸籍係で。新婚ホヤホヤが夫婦別姓届を出します。

小学生の女の子が国技館で優勝、相撲部屋に入門。新座市議会では女性議員が15人（議席の半分）を占めます。また白衣の女科学者がついに男性の妊娠に成功！——とまあ、女たちも世の中も変わってゆきます。

でもねえ、まだ変わらないところ、あるんじゃないかしら…？

掃除のおばさんは懷疑的。

〔夕日商事売り上げ三億円〕

達成記念パーティー会場）

お祝いにきた熊本支店長が挨拶した後、

課長と真ん中で雑談。

支店長「職場におながが多いと、はなやかですよかですたい」

課長「職場の花ですからな。しかし、うちの女の子たちは気が強くていけません」

坂田さんが挨拶に来ると、好きなタイプとみた支店長、やにさがりながらすり寄ってセクハラ。

坂田「キヤーツ、何するんですかー」

支店長「おなごはこんくらしいしとくのがよか」

怒った久保田さん、支店長に強烈なパンチ。

吹っど支店長。

課長「たかがおっぱいつかまれたぐらいでなんだー久保田君みたいになったら女もおしまいだぞー」

久保田「私みたいになったららおしまいですって？ 始まりよっ！」

と、課長の首にがぶり噛みつく。

課長倒れて動きません。一瞬の静寂。

やがてヨロヨロ起き上がると、

課長「あんたが悪い、セクハラ野郎！」といいざま支店長をバシーツと殴ります。社員みんなビックリ仰天。

「課長が変わった！」

「啗んだら変わった！」

「啗めばいいんだ！」

「啗もっ！」

「啗もっ！」

勢いづく女勢。

ぞくぞく登場する吸血鬼たち。

男も吸血鬼に変身しながらあえぎ、もたえ、苦しみます。

みんなで大団円。女も男も、一緒に変わらなければ、幸せになれないとわかります。♪ ダンストゥギャザー ♪

「ヴァンパイア・ショック！」

・創作ミュージカル「ヴァンパイア・ショック」歌詞から



はんさむウーマンのテーマ

Song of Equal Rights

1

アダムの骨から
イブが生まれた
女は不浄だと 誰かが言った
原始女性は 太陽だった
今は月であると 誰かが言った

人間の歩み 差別の歴史
変えるのは私たち
変わるのは時代

2

人は女に 生まれない
女になるのだと 誰かが言った
女はいつも 男の後ろ
シャドーワークばかり
変わらぬ役割
人間のくらし
変えない差別
変えるのは私たち
変わるのは世界

「ヴァンパイアショックのテーマ」

1

生き方変えよう
新しいこと始めよう
心に予感があるなら
いつそなろうよヴァンパイア
どこかむずむずしたら
それが変身の始め
心が貧血だから
赤い血ほしいよヴァンパイア

ヴァンパイア・パンチ
ヴァンパイア・キック
ヴァンパイア・ジャブ
ヴァンパイア・フック

くりかえし

思いっきり咬みつこう
あつたかい血をすすろう
咬めば世界がみえる

人生やり直し
面白いことみつけよう
昨日の私放り出し
とにかくなろうよヴァンパイア
なぜかブルブルふるえたら
それが情熱の始め
女が変われば男も
きっと変わるよヴァンパイア

2

ヴァンパイア・パンチ
ヴァンパイア・キック
ヴァンパイア・ジャブ
ヴァンパイア・フック

「愛のスカレット」

(女の年代歌)

(紅子のテーマ)

あれも愛 これも愛
たかが愛 されど愛

1

だってシングルマザーは
気楽なくらし

仕事は自立の素
子供は勇気の素
元気の素は友だち
男は火の元
火事の用心すれば
自由も身もこころも

「部屋の明かりをとりかえ

自分に花束贈り
きれいだねママ、と言われ
今日も仕事に出かけるよ

私は愛のスカレット

そうよシングルマザーは
花丸印
スカレットも言ったわ
Tomorrow is another day
自由は孤独あじわう
明日はあした
私らしく生きるの
自由も身もこころも
私は愛のスカレット

「そ・し・て」(優子のテーマ)

人として生まれて
つかのまの娘時代
夢見る頃を過ぎたら
気がつけば人の妻

捨て身の恋も知らずに
気がつけば人の母
少しづつ離れて行く夫と子どもたち

坂道を転がるように
続いてゆく 人生の午後

空っぽの時間が過ぎる
かたわらにだれもいない
そしていま
私に何がでるのかしら
乾いてゆく
そしていま
私は何をすればいいのか
わからぬ

「自分さがしの歌」
(妙子と優子のテーマ)

1

だれかのためばかり生きてきた
母でも妻でもない 私は私
変わる女たちいまここで
出会う女たち
ヴァンパイアふやそう

2

自分さがしの旅に出よう
ひかえめになんて
もうしてられない
吸血鬼は私ひとりじゃないはず
出会おう広げよう
ヴァンパイアふやそう

「キャリアウーマンの歌」

(久保田のテーマ)

1

私は会社で一番
出来るといわれる女
キャリアアスリツに
ブリーフケース
エリート中のエリート

2

もちろん結婚も子ども
パフエクトな私の人生
クリントン夫人にも負けないわ
女のあこがれキャリアウーマン

3

私は仕事が一番
生きがいと思ってるけど
離子さんみたいな人もいる
いずれにしてもエリート

1

「出過ぎる杭の歌」
(妙子・優子・久保田・坂田の合唱)

出過ぎる杭は打たれない
突きぬけようガラスの天井
ウーマン・ラヴィング大切な愛
世界にはばたこう
夢をいまに

2

挑戦しようよ
マドンナみたいに
自分らしく
ポリシー持って
みてごらん
いっしょに変わる女たち
あんなにたくさん
あんなにたくさん

女たちがうたう
「愛よへんの歌」

1

愛よへんよ 愛よへんよ
女と男
男の給料 女の2倍
育児と家事に疲れる
ワーキングマザー

2

(へんよ) 愛よへんよ
愛よへんよ 女と男
女ががんばれば 男勝利
男が泣いたら 男勝利
めめしい野郎

3

(へんよ) 愛よへんよ
愛よへんよ 女と男
女がもの言えは 女だてら
男が黙れば 沈黙は金

4

(へんよ) 愛よへんよ
愛よへんよ 女と男
男もする仕事は女流
女もする仕事は至流
(へんよ) 愛よへんよ 愛よ
へんよ!

「おばあちゃん讃歌」

寝たきり老人 さようなら
きんさんぎんさんみたいに
達者に生きて
21世紀 おばあちゃん社会
強くてたくましい
女の時代

「ルンルンO.Lの歌」

(坂田のテーマ)

あたしはただのO.L
5時からが本番よ
会社の仕事なんてどれも雑用ね
お茶汲みにコピーとり
残業はお断りよ

そうよ あたしいつも
恋人探ししてるのよ
アツシ君もみつぐ君も
アハハハ よりどりみどり
けれども全然ものたりない
男もあそびも
何かがあるはず もっともつと

「偏差値50の歌」

(妙子のテーマ)

うちの家族は偏差値
夫と私、娘と息子
(それにパパア)

3LDKのマイホーム
ニューファミリー型のどおり
幸せですかってきかれたら
「ま、こんなもんじゃない」
と答えます
パートおばさんでいいじゃない
カルチャーママはすばらしい

「女はビュア・ハート」(掃除のおばさんのテーマ)

1 男を信じちゃいけないよ
女のハートはビュアなのさ
男の大事は我が身だけ
だから思いしらせようか

2

男を信じちゃいけないよ
女を第2の性だなんて
「俺たちや一番」いい気なもんだ
勝手気ままなノー天気

ああ結婚なんて
ああキャリアなんて
男がしかけた甘いワナだよ
ああホメ育て ああホメ殺し
ホラ あいつをみてごらん

ああ恋なんて
ああ愛なんて
望とおりに
生きて死んだら
ああ女が廃るだけ

なんと読みますか？

ミュージカルの興奮もそのままに登場したのが女性問題研究グループ。
文字を見せて会場の人たちに答えてもらうクイズパフォーマンス。フェスティバルをただ見るのではなく参加してもらうというねらいでもある。

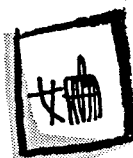


★〔第1問〕——「嫁」という字のパネルが出る

「女偏に家と書いて「ヨメ」ですね。（家を中心に考える日本人の結婚観がよくわかる字だと解説のあと）では、「ムコ」という字はどれですか？」

①嫁 ②贅 ③婿——のパネル。

——会場より「3ば～ん」と声あり。「正解です」男性を指す字なのに、なぜ女偏がつくのか、きっと良きにつけ、悪きにつけ、女性がいないと始まらないからだろうかと投げかける。



★〔第2問〕——「」(女偏に“ほうき”の絵)

女の人がほうきを持ったら何という字になりますか？

会場「フ」の声——そう、夫婦の「婦」です。

「これは(夫婦)と読みますが、どうして女だけがほうきを持っているのでしょうか。わたしたちはこんな字を考えてみました」



と次のパネル。

「男と女が互いに助け合って掃除をしてこそ“ふうふ”。これ、いい字だと思いませんか？」の問いに場内大拍手。

★〔第3問〕——「婆」のパネル



「この字は“ばあ”老女を指します。女が年をとって波のようにシワができるのは自然なこと。むしろ年を重ねた美しさと受けとめたいと思います」ここでまたもや大拍手。

そして〔最後の問題〕へ。



「葉っぱがぬれているようすが男偏の横にあるこの字は何と読むのでしょうか」会場より「ぬれ落ち葉」の声あり、正解にほっとして意味を説明し、クイズは終わり。

「日本には昔から女性にきびしい文字や言葉がたくさんあります。現在では男性にもずいぶんきびしい造語がありますが、わたしたちは女も男も「良い人生だった」と思えるようにステキに生きたい。そして差別的な表現や行動がなくなる社会をめざしましょう。（でパチパチ!）」

あ・と  が・き

おたのしみはこれからじゃ！

●ねえねえ、これで全部終わったんだよね。

★事業報告書はできたよ、これで。

●一年間お疲れさまでした。

★何をおっしゃる。これは「はじめの一步」でしょう。

●な、な、なんと！

★ほら、この文部省の事業の長ーい名称おぼえてる？

●一年かかって覚えたわよ。「女性の社会参加支援特別推進事業」。

★そのとおり。それで私たちは、新座のみなさんにメッセージを投げかけたわけよね。社会参加しよう！元気に暮らそう！女と男の共同社会をめざそう！ってね。投げかけっぱなしでいいの？

●そっか。この一年間でずい分いろんな女の人たちと出会ったよね。

★そのネットワークを根づかせて、女も男も、みんなはんさむになってもらわ

なくちゃ、ね。

●それはそうね。ということは、これからが本番ってわけか。

★もちろん。

●だけど私はこれ以上はんさむになっていいのだろうか？！

★どーゆー意味？

●だってこの一年、私たちスターだったもの。著書はだすわ、新聞記者から取材は受けるわ、テレビには出るわ、女優になって舞台上がるわ。

カメラを向けられるたびに、私美しくなって。

★40すぎて目立ちたがりやの面目躍如ね。でもこれからのはんさむウーマンは「心のはんさむ」をめざすのよ。

●地味にいこうってことね。それも大丈夫、まかせなさい。

★「みめより心」ってね。

●ちがうわよ、「みめも心も」よ！

新座はんさむウーマンネットワーク

文部省「女性の社会参加支援特別推進事業」

1993年3月

編集発行 新座はんさむウーマンネットワーク

新座市立中央公民館（事務局）

☎048-479-2321

新座市道場2-14-12

目指せ女性の社会参加

2月7日 ミュージカル上演

新市民団体の



けいこに動くネットワークのメンバー

女性の社会参加意識や男性との平等意識の向上を目指す新市民の「新座はんさむウーマンネットワーク」(中野千枝代表)が、女性の自立をテーマにした創作ミュージカルの上演を計画し、一月七日の本番を目標として、週日けいこに動いている。

「新座はんさむウーマンネットワーク」は昨年春、文部省の「女性の社会参加支援特別推進事業」を活用し、公民館で活動するグループや女性団体などを母体に発足。平成四年度の事業計画が同省に認められて交付金を受け、女性のためのセミナーの開催、女性向けハンドブックの発行とともに、ミュージカルの上演に取り組んできた。題名は「パンパイ・シヨック」。平凡な主婦やキ

「会社のシン・シン、大目見せ、セトしたとこ、

読売新聞 1/10 (日)
市民会館での舞台けいこ風景を
取材していただきました。

メンバーの中から集まった男女十九人(うち男性六人)ほどが集まったが、未知の分野に挑戦すること、新しい自分を発見しよう、と、週回のけいこに動いている。動いている人も多く、平日の練習は午後七時半から同十一時半までと深夜に及ぶが、主役の一人、妙子役の藤原野矢子さんは「物語に登場する女たちのように、自分も何か変わって行ければ」と意欲を燃やす。

当日は同市野火止の新座市民会館大ホールで午後一時から、「にじぎわのフェスティバル」でして開演。太鼓グループの演奏。平塚らいてうや与謝野晶子など二十一人の女性の言葉をスライドと朗読で紹介する「時代」に挑んだ女たちに続いて、午後一時二十五分ごろから約五十分間にわたってミュージカル。作家宮合恩子さんの講演なども行われる。

チラシが印刷できました。新聞販売店へ厚意により、折込で配達される地域もあり、整理券は不足しています。なくとも入場できます。チラシ必要な方→中米公民館へ。



ラストの「ワンパイア」勢の前いのシーン。

これカバ ビシッ! といけば
万事 OK!?

手指というけれど「ワンパイア」の前、おぼろげにみえ
ないも2月7日からハッピーン!

はんさむ

No. 4

ウーマン

NETWORK ニュース

A HAPPY NEW YEAR 1993. 1. 15

早いもので 2月7日(日)の フェスティバル 当日まで
あと 3週間 となりました。

ポスターやチラシも出来上り、^{「ウランバヤ」}吸血鬼ショックの
前評判も上々 というところ。

なんとか「満員御礼」となりますように。家族
はもちろん 友人 知人・恋人……。お誘いください。

みんな、はんさむにして

あげましょー!



主役4人「ダンス」あすきん様は打たれない



もう、一息です。

体調に気を付けて、ベストの状態
で ステージへ。 晴れたらいいね。

女性力がゴミ問題解決に……

荻原弘子

(日本テレビ報道局)

私の住んでいる団地で、最近ちょっとした騒ぎがあった。団地内の公園をつぶし、木を倒して、駐車場を百台分増設することになり、反対運動が起きたのである。決定事項として、一方的に配られたその計画書を見て憤りを覚えた人は多かったらしい。私も、アンケート用紙には、住環境が破壊される、とびっしり反対の意見を書き連ねた。

そうこうするうちに、一人の女性が反対の署名運動を始めたという噂が入ってきた。その人は、普段はおとなしい主婦で、とてもそんな大胆な行動をとる人ではないとのことだった。たった一人で一軒一軒回っている姿を思い浮かべ、私は久しぶりに「女性の力」に頼もしさを感じた。一週間ほどして、その女性の周りには賛同者が集まり、手分けして一気に住民の三分の二の署名を集めてしまったのである。その結果、駐車場問題は、再び、すべての住民からアンケートを取り直し、白紙に戻して考え直すことになった。これは、たった一人の女性の勝利である。

五年間ゴミ問題を取材してきたが、最近私は、母性が地球を救うのではないかとつくづく思いはじめている。木が次々と切り倒され、大気も水も汚染され、私たちのまわりには健康な自然がなくなってきた。それは、子どもたちの命を縮めることであると、女性は直感するのでないだろうか。

私自身、睡眠時間を削り、血眼になって取材し、放送しようとするのは、子どもにゴミで汚染された土地を残したくないという思いが強いからである。

取材先で出会う各地のゴミ問題のリーダーも女性。それを積極的に記事にする記者にも女性が多い。男性記者の場合は、家に小さな子どもがいるお父さんだったりする。

子どもを育てるといふことは、野菜を育てるのに似ている。安全でおいしい野菜づくりには、土や水、日当たりなどの環境が大切な要素になっている。これは、スクラップ・アンド・ビルドの工場とは違って、野菜が成長しやすい環境を辛抱強く整えていく作業である。

子育ても、親ができることは、環境づくりだけである。自分の子どもが将来何になるのかは、その子どもの能力次第だが、親は、なるべく良い学校に入れたがったりする。これも環境を整えようとしているのである。親は、子どものためとなると、俄然ハッスルしてしまうのである。

東京都下二十七市町の巨大なゴミ埋め立て地がある日の出町で、新しいゴミ埋め立て地の建設計画が進んでいる。先日、その反対運動に立ち上がった女性に「私は命がけです」と言われた。「私は、あと三十年ぐらいいしか生きないだろうけど、子どもたちはまだずっとこの土地で暮らさなければならぬでしょう」。現在のゴミ処分場のゴムシートが破れ、有害物質が流れ出てくるかもしれないという時、さらに、もうひとつ、処分場をつくらせてくれと言っていることに母性は危険信号を鳴らすのである。「私は、自分の子どもも近所の子どももかわい。だから、この日の出町の自然を守りたいのです」……この覚悟で臨んでいる反対運動だから迫力がある。この女性の家の前で右翼が拡声器を使っておどしをかけてきた時も、ひるむことはなかった。たくましい限りである。

ゴミ問題を環境汚染問題としてとらえ、子どもの命を救おうと女性が立ち上がった時、私は解決への道が開けるのではないかと思う。その兆しは少しずつだが全国各地で見えはじめている。

本人給二十六歳ストップ

職能資格制度の名による女性差別裁判に思う

桑原ちる子

山は雪だろうな、そんな思いにさせる冷たい雨が降っていた一月二十五日、酒問屋・三陽物産に勤める平島千恵子さんの第五回公判が東京地裁であった。

橋本佳子弁護士の尋問に淡々と証言する平島さん。

会社は「非世帯主」「社会的に尺度がそうなっている」という理由で、本人給二十六歳ストップの賃金体系「職能資格制度」を導入した。それが一九八五年平島さん四十六歳の時である。その後労使交渉を繰り返し、労基署の指導も受けたが改善されないまま、一九九一年五月の提訴となった。同一労働をしながら四万円の差別は許せないと「本人給」差別を提訴したわけである。

傍聴してわかった事態は、本人給差別にとどまらず、

「地域生計手当」「家族手当」「住宅手当」「資格給」などなど、月額十四、五万円の差が出ている事実である。

涙が自然にあふれてくる。

子どもが大きくなり定年ちかくなって提訴した勇気をなんとよべばよいのだろう。「真実を述べるのだから恐れるものはない」といえるまでに、どれほどの年月が過ぎたことだろう。

この裁判を勝利に導いてほしい。傍聴席は半分空席。男性が三分の二である。

昨今「年功序列賃金体系」は問題が多いとして「職務職能給」「職能資格制度」導入が云々されている。「賃金のありかた」を考えるチャンスでもある。これは平島さんだけの例だ

ろうか。バブルが破綻したいま、いろいろな形で締めつけや、均等法を口実にした締めつけが多いと聞く。皆さんの実

例とご意見を聞きたい。

カウンセセリングブームに思う

佐々木治子

カウンセセリングが流行っている。最近では、学校の教師までが、子どもの心をはかりかねて、カウンセセリングの講習を受けているという。しばらく前だが、NHKの「はんさむ・ウーマン」でも、女性の適職としてカウンセセラーを紹介していた。

その映像を見て、私は強いショックを受けた。

少し前だが、私は、あるボランティアセンターで、「カウンセセリングのすばらしい効果をうたった冊子を見て、その発行先に電話をかけ、その紹介でカウンセセリングを受けた。半年もカウンセセリングを続けたが、期待したほどの効果はなく、カウンセセラーが感情的になり、一方的に中止を申し渡した。

前払金の残金八万円は返ってこなかった。

次に別のカウンセセラーを訪れた。主婦が自宅で開いている

というケースで、料金は一時間五千円だったが、講習を受けて開業したというその主婦は、どう見てもしろうとで、専門的カウンセセリングとはほど遠い扱いを受け、私の心の傷は、治るところか、悪化した。

私は、肉親との家族関係に悩んでカウンセセリングを受けたが、ファミリーカウンセセリングで、カウンセセラーは、私自身の数々の欠点を、私と家族の面前で列挙した。その結果、私と家族の関係はますます気まずくなっただけでなく、私自身、心が切り刻まれてしまった。

私はボロボロになった。心の傷は癒されるところか、心の底に深い深い傷を受け、今も、その傷から立ち直れずにいる。

*

カウンセセリングを受けようと思う人は、何かの問題をかかえている人である。いろいろな理由で身近な人には相談でき

ないからこそ、自分のあらゆる問題をさらけ出して、いわば赤ン坊のようにカウンセラーに心をゆだねる。その信頼を裏切られたとき、クライアントは深い深い傷を受ける。カウンセラーは、単に心理学を勉強したとかでなく、何よりも誠実で高潔な人格が必要ではないだろうか。

ほんのわずかの期間の講習を受けて、一時間五千円のカウンセリング料が入るとしたら、主婦の内職としては最高である。しかしそれを受ける側には、何の保障もない。

「テレビから」に一言

一八一号『テレビから』に「ことは変わる」と題して書かれていたが、ちょっと引っ掛かるものがあった。

言葉についての番組は私も好きで時々見るが、いつも少し違和感を感じる。私は幼いころ、父の転勤について名古屋―山口間を方々移住し、そのたびに土地の言葉を覚えたので、言葉の違いにはわりに敏感に、かつ等距離に見ることができつものである。そんな私の感ずる違和感とは、すべて東京中心に言葉が測られているのではないかということ。

日本では、カウンセラー開業の資格試験はなく、誰でも簡単に開業できることを、自分が被害者になって初めて知った。伝え聞くところでは、私のような「カウンセリング被害者」は結構多いという。「フェミニズム・カウンセリング」の被害者さえいる、という話も聞いた。へあごらには、ご専門家も多いと思う。この問題をどうお考えか。ご意見を聞きたい。また、同じような被害を受けた方は「あごら」編集部までぜひご連絡を頂きたい。

(フリーター)

浅野美和子

「平らなアクセント」が若者から始まったと言えはにかにもさもありなんと言われそうだが、金田一春彦氏がいつか、「電車」のデ「映画」のエにアクセントをつけて発音しなくなって随分久しいと語っていた。尾張弁では、「ねえさま」「にいさま」という言葉を全くアクセントなしに発音するのはずっと昔からだ。逆に「こうぞうさん」という人名は、テレビの東京弁ではアクセントなし、尾張地方では「こうぞ」までが平らで「うさん」は低音になる。こんな例はいくらで

もある。しかし最近ではテレビの影響で、尾張でも東京弁が交じる。いわく「おっこちる」「わかんない」などは若者によく使われる。

同じような番組だったと思うが、「じゃん」という言葉についてのレポートで、東京弁にそれが入ったのは千葉や神奈川県からの流入だとあって驚いた。私は「じゃん」は三河弁だと思い込んでいたからだ。ちなみに関西弁では「じゃん」と言わず「やん」を使う。

「見れる」「食べれる」はもちろん、「出せれる」「行けれる」など、文章語では「る」だけしかつかない四段活用動詞にまで「れる」をつける。ただし可能の意味だけで、尊敬、自発の意味には使わない。

東京弁に「見れる」が多くなったのは、尾張、美濃地方の人が東京へ移住した結果ではないだろうか。絶えず他の地方から人口の流入する東京では言葉の変わり方は激しいに違いない。それを間違いだと思わずるのは東京人の思い上がりだと言いたい。東京弁が正しいわけではないのだ。それどころか「端」のことを「はじ」、「難しい」ことを「むずかしい」と発音し表記までするようになったのは、いつからか。「六かしい」と表記していたのはそれほど昔のことではないのだ。

「かぶら」を「かぶ」、「煙」を「けむ」というような東京弁をアナウンサーまでが使い、その結果、東京以外の地方でも「標準語」だと思いついて使おうとしたら、おかしいことである。東京弁帝国主義が横行していることに気づいてほしい。言葉が「正しい」かどうかは何を基準にして測るのだろうか。言葉が変わるのは当然のこと。しかし中年以上の人までが若者の真似をして「金魚に餌をあげる」などと言っているのはどうにもいただけない。

*

ところで、イス、コメ、ネコ、のカタカナ表記は困りものだと私も思う。「米国」と書くのに、「米」と書かないなんてまさに噴飯物ではないか。

もうひとつ、揚げ足を取るようだが、「国文法」「国文学」「国文科」はどうか。「国史」という言葉がほとんど博物館入りをしているのに（もっとも旧帝大系の大学だけには「国史研究室」が存在する）。これらの言葉にナショナリズムの臭みを感じるのは私だけだろうか。「日本語文法」「日本文学」、ついでに「国語」も「日本語」と言ったほうがずっと気持ちがいい。

（愛知県尾西市在住 女性史研究者）

『朝日火災・樋口事件』全面勝訴

沢田和子

一九九三年二月十二日（金）「単身赴任ノーは、わがままではない、不当労働行為と夫婦別居配転は無効」と、最高裁は朝日火災の上告を棄却し、神戸地裁、大阪高裁の判決を支持する判決を出した。一九八三年六月神戸地裁で提訴以来十年近い歳月を費やした裁判（途中の詳しい経過は『あごろ』一六八号）に掲載）も最高裁で全面勝訴で終わった。

バブルがはじけて不況風が吹く今年は、経費削減で転勤は少ないかと予想していたら、私の会社に入りする損害保険会社五社の担当者が、高知、愛媛、山口、茨城、東京、と次々転勤が決まった。

東に西に赤紙ならぬ転勤辞令一枚に「栄転」というエサがついて、親や妻子と相談する時間もなく、会社の定めた規定の中で、地位に準じた社宅を与えられてあわただしく引っ越しして行く。受験中の中高生があると単身赴任が当然とされ、妻が就労していたり、病人がいると大変な事態となる。また左遷という言葉で表わされる本人が望まぬ転勤もある。企業

の支配権を従業員に示す手段として人事異動が行なわれるのである。人事権を利用して労働組合つぶしをする悪質な企業も現われる。樋口事件はこれに当たる。

朝日火災のように不当労働行為でなくとも、「いやだ」と言えば首にならないまでも、出世階段からずり落ちる。いずれを選ぶか選択の自由もない状況である。そのような状況の中で夫婦ともども、十年の長きにわたる裁判を闘い抜いた樋口夫妻の勇氣に感動し、拍手を贈りたい。

しかし、朝日火災相手の裁判はこれで終了したわけではなく、不当労働行為を働き、会社の意のままになった労働組合を相手に、労働協約を改善し、定年・退職金を切り下げられた高齢者の裁判が続いている。最高裁で二件裁判待ち、大阪高裁に一件ある。これらは高齢者の人権を問う裁判として注目されている。

当時者樋口和子さんと、担当弁護士の宮地光子さんのコメントをいただいたのでお届けする。共に裁判所に共働きの妻

の就労権を認めさせた功労者である。

喜びと感謝でいっぱい

樋口 和子

十年にもわたる長いたたかいとなりましたが、神戸地裁、大阪高裁、そしてついに最高裁の勝利判決を手にすることができました。こんな喜びはほかにありません。これも多くの働く仲間、全損保の皆様のご支援によるものです。

裁判闘争の中で、我が家だけでなく朝日火災で働く仲間とその家族も苦しい生活を強いられていることを知りました。やむなく退職させられたり、奥さんが自殺といういたましいニュースにも接することになりました。朝日火災の経営者を許せないという思いはますますつのる一方でした。

このたたかいの中で、全損保の働く者の生活と権利を守り、たたかい抜いてきた輝やかしい歴史がこの勝利を大きく導いてくれた一因であることも確認しました。

どれだけ多くの人びとの支援によってこの勝利がもたらされたかわかりません。今一人ひとりにお会いして心からお礼を申し上げたい思いで一杯です。家族が一つの屋根の下で生活ができる喜びをかみしめて、勇気を持ってたたかってよかったと思っています。本当にありがとうございます。

当事者・証拠・支援のおかげ

宮地 光子

樋口事件が最高裁で確定したことについては、本来に「ホッ」としたというのが正直なところです。最高裁は昨年早々と川崎重工近藤事件で近藤さんの上告をしりぞけたので、樋口事件の慰謝料判決について問題視してくるのではないかと心配していたからです。でも樋口事件は最高裁ですら、労働者側に軍配をあげざるを得ないほど、会社のやり方がひどかったのだと思います。

樋口事件はラッキーな事件でした。闘いに立ちあがったばかりした当事者、全国損害保険労働組合の支援、豊富な不当労働行為を立証する事件簿…。

本当は樋口事件ほどの条件がそろっていない事件でも、「単身赴任ノ一」と言う労働者に勝利のもたらされる社会であって欲しいのですが、その道のりは険しいようです。やはり日常的にたたかいを積み重ねるしか、労働者が救われる道がないことを樋口事件は教えてくれたように思えます。

この裁判に関わって最も嬉しかったのは、裁判を闘い抜くことで、夫婦がいっそう円満になり、家族のきずなが深まったことです。

ザンネン！「花の乱」最高裁で敗訴

片岡陽子

一九九二年七月二三日、高裁での敗訴をうけて、十月十四日、上告理由書を提出、石井弁護士によれば、「半年後ぐらゐに判決が送られてきてそれで終わりですよ」とのことでしたが、そのとおり、一九九三年三月五日、石井事務所から送られてきた判決文の写しにより、三月二日、最高裁の判決がおりたことを知りました。

全国で何万人かの支援者が見守った家永裁判でさえ、最高裁は判決日を通知せず、家永さんが、裁判公開の原則に反すると怒っておられますが、私ももちろん、最高裁では出る幕なしでした。

最高裁が弁護士を通じて、私に「上申せよ」と言ってきたのは、片岡か、片岡かということだけ、なるほど判決文をよく見ると、片岡の先が一ミリほど延ばしてありました。

何はともあれ、新評論の山田洋氏と藤原書店の清藤洋氏（ともに私が新評論に就労していた時の同僚）あてに、「裁判は終わっても「花の乱」は終わりません」と電報を打ちました。

一九八八年・五月 地位保全の仮処分を申請、十二月、裁

判に切り替えてから、地裁十七回、高裁二回（初回の次が判決言渡し）、最高裁ゼロ回の公判をへて、ほぼ五年、裁判らしい裁判は地裁だけで、新評論への解雇撤回、現職復帰、残業代の未払分請求はかなえられませんでした。

藤原氏の即日解雇から始まった「花の乱」、藤原氏や二瓶氏は勝ったと思っているでしょうか。

終始、歯牙にもかけなかった（もっとも、法廷には出てきて、証言しました）から、なんの感慨もないのかもしれない。

私は、片手間の裁判と称し、それでも勝つことを証明したいなどとうそぶいてきたのに、面目ないわけですが、もちろん、敗北感に打ちのめされるなんてことはありません。

でも、中小出版百社へのアンケートも続行中、「花の乱」のミニパンフもまだ全部は送りきれいていないので、判決はもっと先でもよかったのというのが正直なところです。

十年は覚悟した裁判が五年で終わったというのは、それだけ高裁と最高裁が形骸化しているということでもあります。

私は予定どおり十年計画でやっていきますが、さしあたり、「花の乱」を初めから、ゆっくり振り返ってみようと思います。最高裁、上告棄却・・・『花の乱』に断・・・* * * * *とはいきませんからね。

*

五年間、楽しく、息長くて「花の乱」を続けられたのは、

* 毎朝、さわやかに目覚められる健康に恵まれたこと。

* 月一金、一日、六、七時間のパートで、十余万の定収入を得られたこと。

* 二年目からはカンパを辞退したにもかかわらず、毎月三

住民票統柄裁判五周年集会を

田 中 須 美 子

婚外子差別を訴え続けている「住民票統柄裁判」は、裁判に訴えてからすでに二年、第一審不当判決から五年になりました。六月十九日（土）午後二時から、東京芸術劇場五階大会議室（池袋駅西口スグ）で五周年記念集会を開きます。

原告と、代理人弁護士榊原富士子さん、福島瑞穂さんの報告に続き、上野千鶴子さんの講演「なくそう婚外子差別、認

千円を送ってくださる方があり、「花の乱」だよりを出す費用はそれでまかなえたこと。

* 傍聴皆勤を宣言、高裁判決を除いて、十八回、傍聴してください方がいたこと。

* ほとんど無償で、不利な条件を背負った裁判を引き受けてくれる弁護士と出会えたこと。（私がこれまで「花の乱」に支出したのは、裁判所への印紙代、ミニパンフの印刷費などすべてをひっくるめて、百万円くらいですが、石井弁護士でなければ、この数倍を必要としたでしょう。）まず、これらに感謝して、「花の乱」を書き続けます。

めさせよう多様な生き方——婚姻制度を考える」があります。なお公判は、五月十七日の予定が七月五日に延期になりました。証人尋問、落合恵子さん。控訴審最後の証人尋問です。

連絡先〇三〇三三三〇二〇三三四五たけだ（夜のみ）

在日の元慰安婦 宋神道さんの裁判に寄せて

金 富子（在日の慰安婦裁判を考える会・メンバー）



四月五日午後二時半、東京地方裁判所前。七十歳の在日韓国人女性が五人の弁護士と共に、この日裁判を起すために現れた。女性は、正式名称「『在日元従軍慰安婦』謝罪・補償請求事件」の原告・宋神道（ソン・シンド）さん。本日この日をもって、Sという匿名だった宋さんは実名を名乗って、マスコミや公衆の前にはじめて姿をみせたのだ。午前中のジメジメも消えすっかり晴れ渡った青空の下、集まった百人近くの支援者からの拍手、群がる報道陣の前に、宋さんは多少のとまどいをみせながらも、弁護士の一人に衰えた足腰を支えられて玄関の中に消えた。

宋神道さんの略歴

宋神道さんは、一九二二年朝鮮（現韓国）忠清南道で生まれた。宗教家であった父は十二歳のとき死亡。十六歳のとき母親に強いられた結婚がいやで、結婚式が済んだ初夜に婚家から逃げ出した。いったん家に帰ったものの、翌朝家を出た。大田で小間使いをしてい

る時、朝鮮人女性に、「戦地に行つて働けば金が儲かる」と誘われた。その時はまさか自分が「慰安婦」にさせられるとは夢にも思わなかった。大田から平壤に行くと、大勢の娘たちが集められていたが、彼女たちに出会って戦地に行くのは自分だけではないことを知り、少し安心した。平壤から旧「満州」を経て、中国天津へ。天津で、業者に着物やワンピースを買い与えられるが、その代金、宿泊費、飲食代には、高い利子が課せられて借金として負わされることになる。その後、宋さんらは陸路汽車で漢口へ。何人かの娘たちは漢口へ残されたが、宋さんらは漢口の揚子江を隔てて対岸にある武昌へ向かった。

宋さんらが武昌へついたのは、日本軍の武漢攻路直後の一九三八年十一月の頃と思われる。彼女が連れられていった煉瓦造りの二階建ての建物の近くには、死体がそのまま残り、血糊があちこちに付着していた。宋さんは壁についた血痕を洗い流す仕事をさせられた。その建物は「世界館」と名付けられたが、軍の許可がおりる前から軍人たちが殺到した。この慰安所

には、数十人の慰安婦がおり、すべて朝鮮人であった。宋さんは、武昌に着くとすぐ性病検査をされた。この時はじめて自分の「仕事」が何かを理解した。開設当初、宋さんは何度か逃げようとしたが、中国語も地理もわからず、結局は諦めた。通過部隊が武昌に宿営するような場合、一日八十人以上もの兵隊の「慰安」を強いられた。兵隊の要求を拒否したりすると、業者や兵隊から殴る蹴るの乱暴を受けた。また、時には心中も強要されたりした。現在、宋さんの太股のつけ根や背中には傷痕があり、右耳も聞こえないが、それはその時受けた暴力が原因である。また、慰安所の先輩が日本語がわからないので忘れないようにと、ほど



こした源氏名の「金子」という入れ墨がいまも腕に残っている。

約三年後妊娠したため、漢口の後岳州の慰安所に移った。その他、安陸、長沙、宜昌、長安、沙市、咸寧などの慰安所を転々としながら、それらの慰安所からしばしば特定の部隊付きの慰安婦として各地に連れて行かれた。部隊付きの場合、慰安所の施設さえなく、部隊は人一人入れるぐらいの穴を掘って毛布を敷き、そこで宋さんらに一方的な性行為を強要した。ときには砲弾が飛び交うさなかに「慰安」を強要されたこともあった。また、中国軍の捕虜の殺害現場に慰安婦を立ち会わせたり、部隊が留守で警備が手薄なときには歩哨の役までさせられた。こうした過酷な生活を強いながらも、金銭的支払はほとんどなされなかった。軍慰安所にいる時でも「国防献金」の名で吸い上げられ、部隊付きのときは名目上の「給料」さえ支払われなかったのである。

七年近くの慰安婦生活で妊娠を繰り返したが、出産

しても慰安所や職場では育てることができず、手放さなければならなかった。

敗戦は軍慰安所で知った。軍は宋さんら慰安婦に敗戦さえ知らせず、放置した。その時、宋さんがいた慰安所に通っていた峯部隊のIが「現地満期で退役したいしよにならないか」と誘いにきた。軍から放置され、朝鮮に帰る術もなかった宋さんは、Iとともに日本に行き結婚することを決意した。Iとともに漢口の日本人租界を経て、翌年五月ごろ引揚船で博多に到着した。ところが、日本に着いたとたん、Iは宋さんを捨てた。絶望した宋さんは自殺を図った。死ぬことができないうと、ある在日朝鮮人の紹介でHさんという在日朝鮮男性を知る。以後、Hさんが亡くなるまで宋さんは生活をともにした。Hさんが死亡したいま、宋さんはHさんの位牌を守りながら一人で暮らしている。

※詳しくは、在日の慰安婦裁判を支える会編「『日元従軍慰安婦』謝罪・補償要求事件・訴状」頒価一五〇〇円、または川田文字著『皇軍慰安婦たちの戦中・戦後』（仮題、

今夏販売予定」を参照して下さい。

宋さんとの出会い

私たちがこうした体験をもつ宋さんの存在を知ったのは、昨年一月に開設された「従軍慰安婦一一〇番」に寄せられた情報がきっかけだった。その時は本人からのものではないため追跡調査はしないということになったが、作家であり「一一〇番」に参加した川田文子さんが「一人暮らしで困っているようだ」という話が気になり、三月に急に思い立ち、宋さんが住む宮城県に向かった。何度かの聞き取りのなかで、宋さんは「自分も裁判ができるのか」と聞いたという。前年九月十二月、金学順さんから元従軍慰安婦と軍人・軍属が日本政府を相手どって裁判を起こしたことを宋さんはテレビを通じて知っていた。「私も」という思いがあったに違いない。

かくして十月、「一一〇番」に関わった三団体の主催で、東京で宋さんの話を聞く会がもたれた。その時

には提訴するかどうかよりも、とにかく話を聞いてみてから、という趣旨で「一一〇番」関係者だけが集まった。私もこの席ではじめて本人から直に、先述した「慰安婦体験」を聞いたのである。

この時は彼女の体験のあまりの壮絶さに驚いたのはもちろんだが、私にとってそれ以上に驚きだったのは、宋さんが実にアツケラカンとしていることだった。こうした話を時には面白おかしく語り、皆の要望に答えてその昔覚えさせられた軍歌を陽気に歌ってくれたりもした（のちにこの明るさが、寂しさの裏返しであることを知るようになったのだが）。ただ、腕の入れ墨や背中への刀傷を見せてくれたときには、胸が痛んだ。

この席で裁判について問うと、宋さんは「日本政府に謝ってもらいたい、あんたらがやるんだったら、オレはやる」という返事だった。球を投げたつもりが、宋さんに返されてしまった。宋さん自身も決めかねていたのだらう。その後、弁護士との話し合いの場をもったり、部隊名などがわかるので事実調べもあわせておこないながら、宋さんの気持ちが固まり次第、裁判

をおこすことにした。宋さんが迷いながらも最終的に提訴を決めたのは、暮れもおし迫った頃だった。その決意を受けて年末に提訴決定の記者会見をもち、今年一月二十三日に〈在日の慰安婦裁判を支える会〉が正式に発足したのである。

新たに集まったメンバーも加えた事務局会議のなかで、最も論議になったのは提訴の際に実名を出すかどうかということだった。

加害の国日本に在日韓国人である原告が住んでいるということ——裁判の意義にもかかわることだが、これが韓国やフィリピンから起こされた慰安婦裁判とまったく異なる点である。現に、日本政府から生活保護を受けているのに日本政府を相手どって裁判を起こすのかという声が届いていた。右翼や元軍人、これを快く思っていない人々からの有形、無形のイヤガラセや妨害があるのでないか。宮城県に住む彼女を東京中心の〈支える会〉で守りきれぬのか。実名を出し顔が見える関係になったほうが支援の輪は広がるのではないか。地元で支援者をつくれぬか……など、論議はつ

きず、何度も堂々めぐりを繰り返した。原告は当初から名前を出してよいと言っていたのだが、最終的には原告の「正々堂々と本名を出して聞きたい」というひと言が決め手となり、提訴の日を迎えたのである。

宋さんの裁判が問いかけけるもの

今回の裁判の特徴や意義について、私見も交えながら簡単に述べたいと思う。

まず、日本国内に在住する元慰安婦が起こしたはじめての裁判であること。四月二日のフィリピンの元慰安婦たちの集団提訴が、慰安婦問題が韓国だけの問題でないことを突きつけたとするならば、この裁判は慰安婦問題が「海の向こう」からきた問題でなく、まさに加害の国日本の足元から問題の所在を突きつけたといえる。その点からも、実名で顔を出して闘う意義は大きい。この裁判の成り行き次第では、第二・第三の宋さんが出てくる可能性を引き出したのである。また、韓国、フィリピン、在日と裁判が続くことによって、

慰安婦問題が多角的な広がりをもつことにもなる。

次に、韓国の金泳三新大統領が三月十三日に「物質的補償は求めない」という発言に飛びついた日本政府は、四月以降、韓国で元慰安婦たちに聞き取り調査を行い、六月頃には第二回調査結果を発表し、慰安婦問題の決着を図りたい意向（『読売新聞』三月二十日付け）という。つまり、日本政府としては、聞き取り調査を形式的にでも行い、批判的になっていた「強制連行」をこの際認めることで、この問題の早期決着を図りたいとする意図がミエミエである。しかし、この問題は日韓、または日比だけの政府間だけで解決できる次元の問題ではすでになくなっていく。日本政府が、アジア各国に広がった慰安婦問題をはじめとする戦後補償問題にどう向かい合い、人権侵害を受けた被害者個人の補償請求権に対しどう応えるのかの問題なのである。また、日本政府のおハコである「日韓協定で解決済み」の常套文句も、この日韓協定の枠外に置かれた在日韓国人・宋さんには通用しない。その意味からも、この時期に宋さんが裁判を起こした意味は大きい。

二重の犠牲者「朝鮮人慰安婦」

第三に、元慰安婦単独で闘うことになるこの裁判では、これまでの戦後補償裁判ではあまり指摘されなかった女性の性と人権の視点を全面的に出すことができるだろう。

宋さんは慰安所設置が本格化した一九三八年末から敗戦までの七年余りを、「慰安婦」として過ごさなければならなかった。朝鮮人慰安婦の場合、植民地朝鮮から性経験のない未成年の少女が「だまされて」慰安婦にさせられたケースが多いのだが、略歴からもわかる通り宋さんもまたその例からもれない。そればかりか、軍専用の慰安所に三年、その後四年間は各地の慰安所を転々としながら、部隊付きの「慰安婦」にまでされた経歴そのものが、朝鮮人「慰安婦」のモデルを一人で体現しているといつてよい。また、地名や師団名、部隊名も具体的に証言が得られているので、これから資料探し、証人捜しも日本にいる利点を生かして

行うことができる。

彼女の七年間余りの被害の実態を法廷の場を通じて具体的に明かにすることによって、朝鮮人「従軍慰安婦」問題、さらには「従軍慰安婦」問題の真相と本質を浮き彫りにすることができるだろう。

これまで朝鮮人慰安婦たちは、民族差別と性差別の二重の犠牲者であると言われてきた。しかし、実際には一方の視点だけが強調されてきたように思う。たとえば韓国・朝鮮人（男性）は民族差別を、（日本人）フェミニストたちは性差別を主要にとりあげてきたように（一概には言えないが）。もちろん、民族差別の側面、性差別の側面をそれぞれに深めることは重要だが、これからは二つの側面を切り離してではなく相互の関連性をみていく必要があると思う。

従軍慰安婦のうち、朝鮮人女性の割合は八割に及ぶと言われるが、これほど大量の朝鮮人女性を「徴集」「連行」できたのは、当時朝鮮が植民地であったという歴史的條件抜きには考えられない（実際、日本は自ら批准した「婦女売買に関する国際条約」からは植民

地を除外する差別的な取扱をしている）。また、慰安婦制度は明治時代以降の日本の家父長制度や性風土、その象徴としての公娼制度と密接な関連をもっている。この二つの条件のもとで、宋さんの例が示すように、銃弾が飛び交うような前線まで「従軍」させ「慰安」を強要させるような朝鮮人「従軍慰安婦」の存在が可能になった。すなわち、〈異民族〉かつ〈おんな〉という二つの要因が重なりあったからこそ、こうした非人間的所行の極致が可能になったのである。〈民族〉と〈おんな〉がどう結びつき、どう作用していったのか、この相互のからみ合いを丁寧にみていくことが、「従軍慰安婦」問題、少なくとも、朝鮮人「従軍慰安婦」問題の本質に迫る時に必要な分析方法だと思う。

私は、これまで問われた「民族差別」に加えて「性差別」もまたこの裁判の特質として、同じ重さで担いながら、相互の関連性も含めて見ていきたいと考えている。

日本人慰安婦の場合、徴集対象や方法、慰安所での

扱いなどで、たとえば朝鮮人や中国人慰安婦とは明らかに異なる扱いをした（良し悪しは別として）。また、フィリピン人慰安婦の場合は、占領地女性への「暴力的な徴用と強姦、それに続く困い込み」を特色とする（『フィリピン「従軍慰安婦」補償請求事件・訴状』十八ページ）。このように従軍慰安婦問題といっても、各国においてさまざまな様相を呈していたことがわかってきた。問題の全体像を知るためにも、それぞれの違いとその背景をきちんと分析する必要があると思う。

なお、正式事件名が示すとおりこの裁判は、あくまでも「謝罪・補償」を求める裁判でありながら、「請求の趣旨」では「被告は、原告に対し別紙文案記載の謝罪案を公布して謝罪するとともに、国会において公式に謝罪せよ」として、金銭補償については言及しなかった。

それには、二つの意味がある。まず、日本政府が自らの罪責を認めるならば、その責任のとり方については罪を犯した本人自らが真摯かつ主体的に考えるべきではないか。次に、たしかに宮澤首相は九二年一月の

訪韓で謝罪の言葉を繰り返したが、その後被害者に対しては「補償にかわる措置」は口にしても、「補償」そのものをいっこうにしようとしていない。補償を伴わない謝罪は、もちろん欺瞞にすぎない。その意味で「まず謝罪を」を前面に出したのである。そして、それは原告の要望に添っている。

これまでの、戦後補償を求める運動のなかで、「謝罪」と「金銭補償」をセットとする流れがようやくできてきたが、今回の裁判ではこの流れがあったからこそ「まずは謝罪を」とする選択が可能になったと言える。

実をいうと、加害の国日本の足元で、異民族が日本の過去の罪業を告発し訴訟を起こすことに対する「風あたり」が心配されたことも大きい。被害を訴える彼女は、大勢の加害の当事者たちに囲まれて生きていかねばならないのである。それはそのまま、「在日」がおかれた状況の厳しさを物語っている。

宋さんは、四月五日の提訴の後で開かれた記者会見

や夜の報告の集いで、「二度と戦争を起こしてほしくない」「日本政府に謝ってもらいたい」「恥ずかしさが半分、情けなさが半分あるけれど、生きているうちに訴えたかった」と何度も繰り返し語った。

一九九〇年代に韓国、日本、アジアの女性たちを中心にまき起こった「慰安婦」問題の真相糾明と問題解決を求める運動がなかったら、宋さんはその体験を胸にしまいこんだままであつたかもしれない。私は、宋さんとの出会いを大切にしたいと思う。日本にいま住んでいる多くの日本人、「在日」の人々に彼女の体験とその意味を知ってほしいとも思う。

そして、長い沈黙のあとに語られたたった一人の訴えに、「いま」応えていきたいと思う。その問いかけは過去の日本だけでなく、その罪を知りながら頬かぶりしてきた私たち一人ひとりにも向けられていると思うから。

問い合わせ先／〇四二一四一一〇二五

郵便為替／東京三十七六〇七二／在日の慰安婦裁判を支える会
個人年会費／三、〇〇〇円・賛同団体カンパ／一口二万円

ぬち
6・15 命どう宝
市民が問う「PKO法」この1年
司会は斎藤千代さんです

- とき 6月15日(火) 開場 午後6時、開会 午後6時半
- ところ 東京・山手教会(渋谷)
- パネリスト 吉武輝子 ダグラス・ラミス 増田れい子 友田良子ほか
- 各地からのアピール
- 自衛隊撤退のタイミングは 剣持一巳
- 司会 斎藤千代(あごら) 中島光子(「PKO法」違憲訴訟の会)
- チケット 1,000円
- 賛同金 個人1口 1,000円、団体1口 3,000円

主催 命どう宝——市民が問う!「PKO法」この1年実行委員会

〒113 東京都文京区本郷2-4-3-504 TEL03-3813-0328 FAX03-5684-5870

戦火激しいころ、佐賀県鳥栖小学校を、二人の特効隊員が突然訪れた。講堂のグラウンドピアノを弾かせてほしいという。二人は音楽専攻の学生。芸大生が「月光の曲」を弾き、佐賀師範の学生が「海行かば」を弾いて二人は帰隊する。

二人の面影を抱いてこのピアノを守り続けた女教師の追憶に始まる画面は、戦時下の「特攻隊」の一面をあざやかに描き出し、最後に特攻隊の秘話に迫る。

祖母から母へ、母から子へ、「戦争」が、その中の「特攻」の意味が語り継がれることを願って、鳥栖市民を中心に、全国の平和運動にかかわる人々の浄財でつくられたというこの映画は、「見えない大きな力、特攻で命を落とされた六千余柱の霊に後押しされてつくった」という製作者たちのいかなる思いがストリートに伝わるが、あえて言えば、同様、庶民の浄財でつくられた『東京大空襲』がそうであったように、ドキュメンタリー仕立てにしたほうが、より迫力があつたのではないかと惜しまれる。たとえば、細かなことだが、当時の学童たちが、「海行かば」を弾いてほしいと頼

あごら試写室



特攻隊の秘密に迫る 月光の夏

むシーン。あの当時、「海行かば」は、海軍の玉碎の時に歌われたもの。いわば不吉な曲で、これから飛び立つ人に頼むことはなかっただろう。弾き手自身が、「自分たちの鎮魂歌として弾く」と言えば、はるかに胸に迫る。

また鳥栖小学校が空爆を受けるシーンに、地方都市の小学校まで……と驚いたが、全体が劇仕立てになっているため、その信ぴょう性も、いまひとつ迫って来ないなど、残念な部分がいくつかある。

ただ、『東京大空襲』に比べると、いかにもしろとうとのみずみずしい思いを基本にしてつくられただけに、俳優には渡辺美佐子、仲代達矢ほかベテラン陣も加え、監督に神山征二郎を迎えているが、全体にすがすがしい感覚があふれている。風化しがちな戦争を語り継ぎ、考えるうえで貴重な作品と言えよう。

九州を中心に上映されるが、全国どこでも入場料は千三百円、六十歳以上は千円。申し込みは千106東京都港区六本木4の1の18ニュー麻布ビル「月光の夏」全国配給委員会に。



活動から

“中田さんの死”に、首相・外相に抗議

四月八日、恐れていたことが起こった。

深夜、例によって平和ネットの仲間同士、電話が飛び交い、翌日昼、手に手にメッセーじリボンを持った約七十人が、外務省正門前で次々に抗議声明、「平和五原則が破れた今、即刻撤兵を」と訴えた。外務大臣にその旨の抗議文を手渡した後、総理府に回って首相にも抗議文を提出したが、へあこらへは、ネットワークとしての抗議文のほか、へあこらへ独自の抗議文も用意、首相と外相に提出した。

小雨の中、強い風が吹いて、外務省では桜がハラハラと散った。それは若くして逝った人を悼むようにも見えた。私は、次のようにアビールした。

「私は、いま『人間』と書いたリボンの、「人」と「間」のあいだに、黒いリボンをつけました。人と人をつなぐうとして、人と人との間で散った中田さん。あなたのみずみずしい感性で、感じたこと、見たこと、聞いたことを、

私たちは聞きたかった。

永遠にあなたの話が聞けなくなったことが、何とも残念です。

ボランティアがどんなに無力で、どんなに割りの合わないものか、NGOボランティアをした私には、よくわかります。しかし、PKOを本当に阻止しようと思えば、できるかぎり多くのボランティアが現地に飛んで、日本人も汗を流して働き、武力によらない協力で成果をあげるほかない。そんな思いに突き動かされて、中田さんは現地に飛んで行かれたのでしょうか。

その中田さんが撃たれた。「ボルボト派に殺された」と、いま何人かの方がおっしゃいました。でも、中田さんを殺したのはボルボト派だったのでしょうか。弾丸を撃ったのは、もしかしたらボルボト派だったかもしれない。しかし、仮にボルボト派が撃ったとしても、殺したのはボルボト派でしょうか。カンボジアに大量の武器弾薬を売り払い続けて底なしの内戦を激化させた大国と、軍需産業、その軍需産業と結びついた金権利権の政治家こそ、下手人ではないでしょうか。

「国際社会に名誉ある地位を占めるために、日本人が血や汗を流すことが必要」と、政治家たちは言います。一方で3権利権をほしいままにしながら、どんな顔で、そんなそ

らぞらしいことが言えるのでしょ。

なぜカンボジアが苦しんでいるのか、どうすればそれを解決できるのか……。人間と人間が手を結んで、共に悩み、共に考えてこそ、解決の道は見えてくるのではないでしうか。

外務省の皆さん、政治家の皆さん、どうかこれ以上、一滴たりと、日本人の血も、カンボジア人の血も流さないよう、即刻自衛隊を引き揚げてください。

きょう私たちは全員、胸に黒い喪章をつけています。この喪章をはずしても、心の喪章はつけ続けるつもりです。そして国家権力による貢献ではない、人間から人間への協力を考え、実行して、中田さんの志に応えたいと思います」

(斎藤千代)

改憲ムードに “ゆるがぬ” 女たち

P KO、政治改革の声に乗って、一段と声高に叫ばれるようになった「九条見直し」の声。情勢にカナリヤのように敏感な女たちは、「護憲は非現実的」の声に「何と言われようと、九条は守り抜く」と、各地で立ち上がり始めた。

護憲Ⅱ反P KOを貫いてきた女たちのネットワークは、四月十七日へゆるがじネットを結成。

五月三日の憲法記念日には、学歴・職業・年齢等々の壁をぬり払って、「護憲」の一念に燃える千五百名が東京有楽町マリオンに結集、三木元首相夫人、相馬雪香、もうさわようこ、澤地久枝、高良留美子、等々いま活躍する女性のほとんどが舞台上から切々とした思いをアピール。今までの憲法記念日にかつてなかったほどの熱気に包まれた。終わって銀座を延々とデモ行進、夕方からの「改憲阻止・活かそう九条Ⅱ新護憲三千語宣言運動発足の集い」になだれこんだ。「護憲」は保守的、非現実的」といつも冷やかなマスメディアも、さすがに「ことしは盛り上がった憲法記念日」と、取り上げないわけにはいかない状況をつくった。P KO法案成立記念日の六月十五日にも「護憲・反P KO」の志ある人々は、山手教会での集会、渋谷駅頭リレースピーチ等々、なりふりかまわず訴えて、政治改革にも迫る予定。

(川)





いまカンボジアを問う——緊急集会

中田さんに続き、文民警察官も……。何か集会を——と思っていた折、JVCとピースボートが、いち早く緊急集会を呼びかけて下さった。警官の死から四日目、急な集会だったのに会場の総評会館は満員、熱気ムンムン。

JVCの方が、まずカンボジア問題の歴史的経過を解説、続いてピースボートの大学三年生（女子）は、「帰ってきたばかり」の湯気の立つ現地報告。「マスメディアが騒ぐほどの惨状ではない」と、比較的楽観的な意見だったが、その後のJVCの二人の報告は、長く深い関わりだけに、もう少しシリアスなものだった。

会場討論に入ると、五月十二日に第二陣で渡航予定のPKOボランティアへの批判、それに対する反論、「日本人の死」より「カンボジアのこれから」を論すべきだとの意見等々、熱のこもった意見が飛び交い、会場全体が沸き立つような熱気に包まれた。

驚いたことに、「この中でカンボジアに行ったことのある方は」の問いかけには、約五分の一かと思われるほどの手が挙がった。「JVCで把握しているだけでも七百人が行っています」と司会者。それだけに、配られたアピール文に対しても、通常の会にありがちな「ジャンジャン」ではなく、さまざまな異議が出て、大幅な修正が加えられた。いわゆる有名人は、JVCの代表者岩崎氏くらいだったが、JVCの若い女性司会者の見事な司会で、パネリストと会場が渾然一体となった、稀れにみるいい集会だった。限られた時間だったのでカンボジアの状況が明確になったとは言いい切れないが、庶民は「平和」を折っているのであって、「選挙」を望んでいるのではない、クメール・ルージュの加わらない選挙の後の反動が恐れられている、という実態は浮かび上がり、考えさせられた。惜しむらくは三時間がアツというまに過ぎ、選挙の是非等についての突っ込んだ討論ができなかったこと。第二弾の集会が期待される。

P. S. 帰りがけ、顔みしりのAさんが話しかけた。「カンボジアと言うと、すぐこんなに集まる。今はカンボジア・ブーム。その陰で、イラクのことはほとんど忘れられていく。イラクもカンボジアも、一つの線でつながっているのに——」

（千）

『憲法九条の危機と再生』

——自黒区民センターにおける憲法記念日市民集会

「連休の最中に、このような集会にきている人は、戦争あるいは憲法改悪警戒者で、巷には平和享楽者が満ちています」。

特急列車の嫌いな久野収さんは、伊豆の奥から熱海まで各駅停車に立ち続けて来られたという。

「ヴァレリーが書いたように『思慮浅く熱狂しやすく信じやすい人々が、自己を持ち抑制する人々を上回った時に戦争が起る』のだが、皇太子、長嶋、貴の花……と熱狂的になりやすい日本人が、明治憲法でも許されない愛国天皇主義大ブームを起こした」と、戦争状況がつけられる過程の恐ろしさを訴えられた。

「天皇制民族宗教という一神教、国家主権主義万能根性が、日本人に多元的な立場を持ちにくくしているのだが、これを越える手掛かりが九条にはある。防衛とか安全保障という、必ず軍備、『暴力に対してはより大きな暴力しかない』と条件反射的反応が出てくるが、こういう発想で問題が解決したためではない。『国民の生命、財産を守る』こ

とが戦争の目的というのが、領土や財産より大切なのが、思想・文化・生き方の問題なのだ。九条は『戦争以外の方法政治的・思想的・経済的手段で防衛するために全力を尽くせ』といっているのだ、自衛権を放棄してはいけない」

かつての自国の侵略と蛮行を認めもせずに、「侵略されたら」と被侵略国民の悲惨でひどく軍備防衛論者への、なんと格調高い反論ではないか。

P KOのObedienceを、機構ではなく、「作戦」と訳すべきで、国連の戦争挑発行動には参加せず、制裁・圧力行為に限るべきだと言われた。

戦中是对敵通謀分子とされ、戦後は、全面講和を主張したがゆえにアメリカから攻撃される八十三歳の哲学者は、「半分しか話していないが……」と平和享楽者の溢れる街を帰って行かれた。

長身のダグラス・ラミスさんは、やや猫背で、長い両腕を広げ、「ここににいる人たちは殺してもいいし、人を殺した友人も持っていない。私には、グレナダで、ニカラグアで、ヴェトナムで、殺人を経験した友達が何人もいる」と、日本国憲法の五十年の意味を聴衆に訴えた。

いつもながらのユニークな発想で、「国家に権力を集中すれば、秩序は守られ、国民は守られるという考え方があ

る。しかし二十世紀の国家は、テロリスト・暴力団などと

くらべものにならない千万の単位で殺し、警察権、交戦権、刑罰権（死刑）など命令に従っている限り罪にはならない。しかも国家は、タイ・中国のように自国民すら殺している。だから日本国憲法は、国家の常識からみたら非常識（！）ということになる。だが、ほんとうは『第九条が非常識』という世界の常識が狂っている。平和について話すと、平和的成功の例を出せと言うが、人類の歴史のほとんどすべてで平和的解決の方が成功している」と、やはり武力の解決性をおだやかに批判された。

最後に日市連代表の色川大吉さんが、社会党の九三宣言や読売新聞社の憲法調査会報告など、今や解釈改憲どころではなく明文改憲の機が熟したとする動きのいくつかを、冷静に紹介解説された。

税金と年金について ―質問をどうぞ！

あこら九月号は「女と税・年金」の予定です。専門家が回答するQ&Aコーナーがあります。質問・疑問、どしどしお寄せください。

また、税理士、社会保険労務士等として専門的立場から執筆したいと思われる方は一報を。

〒160 新宿区新宿1-9-6 あこら

冒頭に、十二年前に沖縄で出された『琉球共和社会憲法私案』を読み上げられたのだが……。あの地上戦で九死に一生を得た人々の地に、戦後は極東最大の基地が作られ、ようやく果たした復帰後は、日本国憲法と連帯の希望をもったのに……。『好戦国日本よ、好戦国民よ……琉球は分離独立して……国家を廃絶し……権力をつくる体制と訣別したい』という。いわば日本国民に対する絶縁状としての憲法だという。きれぎれにしかメモできなくて残念だったが、いつの日か前文を通して読みたいものだ。

「ただいま都心マリオンには千五百人の女性が集まっているそうでーす」と舞台の袖で司会者が伝え五百人の拍手が起こった。二十代の男女が会場を占め、老いた良心から若い良心へ希望がつながっていくのを見た。（高野ゆう子）

6・15

ぬち

命どう宝

市民が問う！「PKO法」この1年

おぼえていますか……!?

1992年6月15日、10月12日、1993年3月18日。

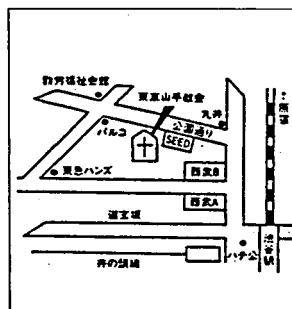
「命どう宝」沖縄のことばで「命こそ宝」ということです。

「PKO法」はわたくしたちが1年前に心配したとおり自衛隊派兵法となりました。カンボジア・タケオの自衛隊駐屯地の7カ所には土のうが積みれ、いつでも戦闘状態に入りかねません。これまでも戦争は自衛のための争いから始まっています。また、尊い命のやりとりが始まるのです。……。

「PKO法」はその方向に発展する危険性を持った法律です。

この「PKO法」の1年を問いなおす集会をつくりましょう。

- と き 6月15日(火) 開場 午後6時、開会 午後6時半
- ところ 東京・山手教会(渋谷)
- パネリスト 吉武輝子 ダグラス・ラミス 増田れい子 友田良子ほか
- 各地からのアピール
- 自衛隊撤退のタイミングは 剣持一巳
- 司会 斎藤千代(あごら)
中島光子(「PKO法」違憲訴訟の会)
- チケット 1,000円
- 賛同金 個人1口 1,000円
団体1口 3,000円



主催 命どう宝——市民が問う！「PKO法」この1年実行委員会
〒113 東京都文京区本郷2-4-3-504 TEL03-3813-0328 FAX03-5684-5870

姓“という重しをひきずって

浦島悦子

四十代も半ばを過ぎて、やっと自分の「姓」とすこし折り合いがつけられるようになった。

幼いころ何気なく使っていた姓というものが、「家（いえ）」の名称であると気づいたときから、それは私の上ののしかかる、逃れようにも逃れられない「重し」となった。

鹿児島島の田舎の旧家の生まれ育ちで、家（いえ）や血縁関係を何よりも大切にする母の価値観にも、世間の大勢や常識に従うのをよしとする父の価値観にもなじめず、家を出て親不孝娘となつてはみても、この姓をひきずりながら生きていかねばならないことに変わりはない。

なんとかそこから脱したいと思っている親の家を象徴する姓を、にもかかわらず、結婚によって変えることに、私は激しく抵抗した。

長い植民地支配の歴史から薩摩（鹿児島）への消しがた

い怨念をもちつづけている奄美人の一人である夫は、

「浦島という姓がそんなに大事か」

「奄美の姓を名のるのが、そんなにイヤなのか」と私を責めた。

いやいやながらひきずってきた姓を捨ててしまいたい衝動にもかられたが、しかし、せっかく親の家を出ても、別家に入るのなら、それが何になるだろう。これまで引きずってきた重しを、別の重しに取りかえることに意味があるとは思われなかった。それに、それが前のものより軽いという保証はどこにもないのだ。

「改姓しないのは奄美差別だ」という責めや、「気持ちよくわかるが、こんな小さなシマで、人の理解できないことをすると浮いてしまう。シマを改革していくためにも、まずは受け入れられることだ」というすかしに、うまく反

論できず、すっきりしないまま、結局、私は戸籍の上では改姓した。そのとき、親の籍から出たという快感があったことは否定できない。

しかし、私はその後も、通称としてなるべく生まれたときからの姓を用いた。それは、家の嫁ではなく、一人の対等な人間どうしでありたいという私の願いのささやかなあらわれでもあったし、また、夫の姓で呼ばれたときのどうしようもない違和感から自らを立て直すためであったのかもしれない。

シマの人に、「いつでも逃げられるように、旧姓を使っているんでしよう」と皮肉を言われ、そしてそれは十年後、現実となってしまったのだが、離婚して、戸籍上ももとの姓にもどったとき、ホッとすると同時に、十年間、自分が引き裂かれていたのだということに、はじめて気づいたのだった。

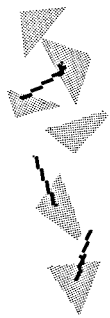
親の家からも夫の家からも出て、重しはだいぶ軽くなったし、離婚後三年たって、少しは愛着も感じられるようになった。しかし、軽いとはいえ重しは重しだし、姓にまつわるいやな思いを完全に払拭することは、なかなかできそうもない。いっせ、せんと別姓に変わようかと思った

こともあったが、それにともなうめんどろな手続きや大小さまざまな摩擦を思うと、そこまで踏みきれない。姓なんかなければ、どんなにすっきりするだろうと思うこともあるけれど、私のように掃いて捨てるほどありふれた名では識別に困るかもしれない。

ともあれ、家から、いささかなりとも自由になって自分の姓をながめてみると、あれ、とてもきれいいじゃない？と気がついた。青く澄んだ美しい入り江（浦）に浮かぶ緑濃い島。私が愛してやまない琉球の島々のたたずまい。

ついでに言えば、私は、仲村渠（なかなだかり）とか瑞慶覧（ずけらん）とか慶田盛（けだもり）などというウチナーの姓を、とても美しいと思う。沖縄人（ウチナーンチュ）であることを知られたくなくて、あるいはヘンな名前だとからかわれるから、という理由で、ヤマトふうに変化した沖縄出身者たちが、最近では再びもとの姓に誇りをもつてもどる例が多いというのは、うれしいことだ。

姓と名がともに、一人ひとりの人間の個としての尊厳を、ただそれのみをあらわすようになるとき、私の重しは重しでなくなるのだろうと思う。



おんぼろあじ

皆森禮子

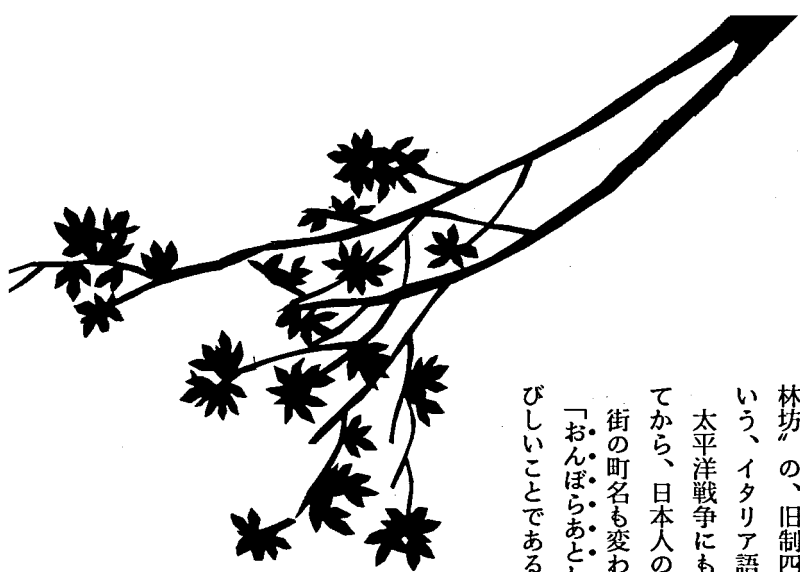
東横線の『渋谷』と『代官山』の中間の高級ブティックやレストランのある街に“OMBORA TO”という、こぢんまりした店がある。

わたしは遠く離れたふるさとが思い出されたり、人恋しさを感じるとき、その店でランチタイムを楽しむ。最初この店を見つけたとき、どこかで聞いた言葉だな、と思っていたら、加賀言葉で「どうぞごゆっくり」という意味だった。

幼い日に母の生家、金沢行くと、祖母や近所の人々がこの言葉で迎えてくれたものだ。

奥行きの深い店のクラシックな椅子にかけると、ひとりひとり、塗りのお盆に、洋風の割烹料理が運ばれる。手をかけ、ていねいに仕込まれた四季の香りが、味とともに、ふるさとを思い出させ、祖母のぬくもりさえ感じさせてくれる。

店主の「祖母が金沢出身なので、方言をローマ字になおした……」と語られる様をみて、金沢の街の長土塀が続き、天から謡が降って来ると言われる家並み、うわぐすりのきいた黒い屋根瓦の風景が浮かんで来た。



東京では古都のゆったりした方言が店の名前になっているのに、金沢では、県一番の繁華街「香林坊」の、旧制四高生たちのたまり場でもあった店舗が、次々に姿を消し、今は「A T R I O」という、イタリア語の名前の大きなビルになってしまった。

太平洋戦争にも、文化を大切にと、敵国が残したと伝えられる城下町の古い建物が、平和になってから、日本人の手で壊された。

街の町名も変わり、古い歴史をしのぶすがはなくなった。

「おんぼらあとしていくまっし」と、迎えてくれる人々も少なくなっていくことは、ただたださびしいことである。



“Maverick”（マーベリック）

奥川 睦

“マーベリック”と聞いてすぐピンとくる人は、かなり知識の幅の広い人である。本や映画が好きで、聞きかじりの雑学も幅があると自認している私も、『トップ・ガン』を見ていて、初対面の主人公二人（トム・クルーズとケリー・マクギリス）の会話を聞きのがしていた。

「名前は？」「マーベリック」「へえ」。

高校の教科書によると、マーベリックの語源は人名。寸暇を惜しみチェスに興じたイギリスのサンドイッチ卿。肖像画につき込むお金は贅沢、影絵で上等、と儉約令を出したフランスの大蔵大臣シルエット。水死体と体型がそっくりだった江戸時代の相撲取り土左衛門。この手の例は挙げるとキリがないのだが、Samuel Augustus Maverickは、バージニア出身の若き弁護士。19世紀初頭、テキサスに移住してきた2万人ほどのアメリカ人の一人だった。

当時テキサスは、スペイン領からメキシコ領に移管。

白人はわずか7,500人で、ほとんどはメキシコ人とインディアンだっという。そこへ、アメリカ全土から、簡単に土地が手に入る新天地を求めて押しかけてきた人たちの中に、彼もいたわけである。

成功して大地主となった彼に、40ドルの支払いを4頭の子牛で受け取らせた人がいて、数年を経て群をなす家畜にふくれあがっていた。広大な土地に柵をめぐるすのは不可能だし、放牧の牛は互いにまぎれ出たりまぎれ込んだりしたらしい。トラブルを避けるため、所有者がわかるようにbrandする（焼印を押す）ことが当然のこととして習慣となり、誰もがそれに従っていた。ひとりマーベリックのみがbrandしようとしなかった。それで

高橋ますみさんが「塾の開き方」教えます。

専業主婦から塾経営者へ転身。自身の世界を広げる第一歩とした

〈あこら東海〉の高橋ますみさんが、8月22日（日）、名古屋の自宅で、開塾のノウハウを伝授します。

周辺のオーナーたちが押しかけてきて文句を言うと、「みんな焼印を押しているのだから、印の無いのが私の牛で、別に支障はないでしょう」とすまして答えた。それでカウボーイたちが、焼印のない牛を見つけると“Maverick cows”と呼ぶようになり、縮まって“mavericks”と普通名詞化され、さらに一般化されて人間にも使われるようになったという次第のようである。さしずめマーベリックは“無印じるし”とでも訳すべきなのだろう。ブランド物の語源も、家畜に焼ゴテを当てたbrandから来ているのだと思う。

独立精神旺盛で、グループのやり方に従わない人、マーベリックには、後日譚がある。サム曽孫にあたるMaury Maverickは、1935年、テキサス選出の民主党議員に選出されたが、党が間違っていると思う時は、党の決定に従わなかった。彼のこの態度は共感を呼び、同調した民主党員は“mavericks”として知られている。「他の人が皆、民主党員か共和党員なのだから」と、自分たちはそういう色分けを帯びることを拒んだのである。最近この言葉は、自分の考えに立って群に同調しない人なら誰に対しても使われるので、偉大な思想家の意にも、大馬鹿者の意にも用いられる、と教科書は結んでいる。

そういう言葉の背景がわかると、天才パイロットの主人公が事故で失った自信を回復するプロセスは面白く、一度陥ったアイデンティティー・クライシス（人格破壊）を脱し、ただのヘボパイロットになってしまう危機を乗り越え、父の亡霊も払いのけられる一人前の男に成長するという、トム・クルーズお得意のはまり役の名がマーベリックなのは、なかなか、当を得ていると言えそうだ。

朝9時半から午後5時まで。参加者は資料代・昼食込みで5万円。
先着10名限り。申込み締切り8月1日。今までの受講生から、各地に自宅を教室にした“開塾者”が生まれ、大好評のセミナーです。
お問い合わせは03=3354=3941あごろ事務局まで。



女の情報ネットワーク発足

昨年の参議院選に、東京で反PKO候補を立てようと、内田まさとし氏を担ぎ出して運動を続けた市民のうち、女性のネットワークが、その後も互いに連絡をとりあって、護憲・反PKO運動を重ねてきましたが、緊迫する情勢のなか、緊急事態にもすぐ対応できるネットワークを……と、着々準備を重ね、四月十七日、池袋エポック10で「女たちの情報ネットワーク」(略称「ゆるがじネット」)発足集会を開きました。

本尾 良さんの経過説明、暉峻淑子さんの講演「生活の場から『政治改革』『改憲のねらい』を考える」に続き、中島通子、外口玉子さんほか、会場から活発な発言が相次ぎ、「こういうネットワークを待っていた」という声が、あちこちであがりました。会員は全国規模、各地で学習会が重ねられるようです。☆年会費は二千円。

☆連絡先は東京都千代田区神田神保町1-32

大場ビル302山川事務所気付へゆるがじネット

なお、発足集会の詳細は『あこら』六月号(186号)に掲載します。

「めだかの学校」開校

校長は土井たか子さん。講師は、上野千鶴子、大江健三郎、加藤登紀子、中島通子、日高六郎、福島瑞穂さんほか。「政治改革」って金権腐敗政治を一掃することと想っていたのに、「労組の言いなりになることがなぜ、改革“なの”」「社会党はどうなってるの」——などなど、それぞれの、「小さな旗」を持ち寄って、どこからもしっかり見える大きな旗をつくりあげよう——が目的。開講は六月五日、土井校長の「いま私たちは何を望んでいるか」(予約もうほとんど満席です)。第二回は七月三日、上野千鶴子さんの

「外国人労働と女性労働」。

☆受講料は一回千円、メンバー登録費五千元。

☆申込みは〒100千代田区永田町2の2の1

衆議院第一議員会館307外口玉子事務所

『オルタ』六月の第五号で廃刊

オルタナティブな生き方を目指して、昨年六月創刊された季刊『オルタ』。武藤一羊、北沢洋子・ダグラス・ラムスさんを代表に、斬新な視点を打ち出して期待されましたが、六月二十日発行号で廃刊に。

原因は財政難。定期購読千名弱、支分局購読三百三十五部、書店販売千部で、目標の四千部には届かず、このまま刊行し続けると、毎号百五十—二百万、年間六百—八百万円の赤字、これ以上続けるとPARCの組織自体の維持も困難になる——。「社会的無責任は深く胸にこたえるところではありますが、出し続けると将来さらに大きな迷惑をかける可能性が大きいと判断、まことにぶざまで恥ずかしい次第ですが撤退を決意しました」と挨拶状が来ました。同様、財政難に悩み続けてきた『あいら』は、多分、どこ

よりも、その事情ワカル。ワカル。でも、撤退も大きな勇気です。UNTAACの実態を知りながら、決して撤退はしない日本のPKOを思うとき、そのいさぎよさに拍手！

女性の教育、学習活動史

研究懸賞レポート募集中

(財)日本女子社会教育会が募集中です。

視点は①昭和期における女性の教育、学習活動の歩みを検証する。②女性の教育学習を幅広くとらえる。③テーマは未着手分野を重視。長さは四百字詰め原稿用紙五十枚程度(横書き)、ワープロ可。九二年度は、福岡の会員大川由美さんが「昭和史の中の産婆学校——福岡産婆養成所四十六年の歩み」で見事受賞。賞金二十万円を贈られました。今年度の締切りは九月三十日(木)当日消印有効。応募者は男女の研究者、行政関係者、民間活動を行っている人など、個人およびグループ。採用は二編。

問い合わせ先は 〒105東京都港区芝公園2-16-18

(財)日本女子社会教育会「研究レポート」係

☎03-3434-7575 FAX03-3434-8082

ヨーロッパ的発想とは何か

統合E.Cを支える

多元性と普遍主義

竹内佐和子著

PHP研究所

パリに二か月、日本に二か月、交互に滞在しながら、パリの技術系大学と大学院で日本の社会・経済を講じ、長銀総研で主任研究員として活躍する筆者は、いま注目のエコノミスト。

硬い内容と覚悟してページを繰って驚いた。イントロは市場の光景。まるでパリのマルシェ（市場）で自分も買い物をしているような気分になる。そして、夜空にそびえるライトアップの凱旋門、E.C統合を先取りするリール市、ハイテク技術の中世都市トゥールーズ……。ページを追うことに、フラ

ンスを旅してフランス色に染まってい
く思い――。

この第一章の「ヨーロッパ的発想とは」の結びは「女性像と文化の深層」。恵み深い御母マリアを女性の理想像とする伝統的な良妻賢母崇拜、――その重さゆえの新しい女たち。「ファム・ギッド」（直訳すれば、女性が先導する）思想は、霊性の高い女性によって社会の刷新を図るという運動。「有名無名を問わずサロンを主催する女性たちに、この思想の流れを読みとることもできる。彼女たちはサロンに集まる男性たちにインスピレーションを与えた」と、筆者は記す。

筆者の勤めるボン・ゼ・シヨセ大学の大学院コースでは、所長が女性、副所長も五人のうち三人が女性。日本企業の人びとを招待した折のスピーチで、

筆者は所長のセリア・ルッソ女史を、

「アポストリック」と表現して讃えた。

「アポストリック」とは、宗教語として

は「使徒的」だが、広くは「新しい

思想を伝える先導者」の意味。この言

葉が場内に響き渡ったとき、会場のフ

ランス人たちは、どよめくように嘆声

をもらしたという。ジャンヌ・ダルク、

シャルロット・コルデなど、使命感に

燃える女性が世を導いたファム・ギッ

ドの国、フランス。

しかし、この柔らかな筆致は、第二

章「ヨーロッパは統合を求めている」

第三章「ヨーロッパ像の急展開」……

と読み進むうちに、明晰で判明なエコ

ノミストの、硬質な分析に変わる。

統合E.Cへの求心力が深い歴史を根

とすること、それぞれが個性的で多元

的であるからこそ、普遍主義が可能で

必然であることが鋭い切り口で示され

て興味尽きない。

(千)

四六版／195ページ／1450円

女役割——性支配の分析——

目黒依子著

垣内出版

昭和五十五年十月十日第一刷だが、

私の買い求めた前書には、一九八〇年五月とある。Ⅰ「女性学」の出版 Ⅱ性支配分析の理論枠組 Ⅲ 女役割論——国際比較を通して Ⅳ 日本における女役割の四章からなる本書は、全二百十六ページと厚くはないが、一つひとつの文章が著者の長年の研究と実績に裏付けられた、濃密度の文であり、味わえば、深い女性学の知識を授かった気分になる。そんな力をもった本だ。

初版は、私がまだ子育てと職場とのあつれきに四苦八苦していた時でもあり、この本と出会えなかったのは無理ないとしても、この数年フェミニズムに関する本は相当数手にとってみたつもりだから、今日まで本書に出会えなかったのは、不思議な気がする。

「女性学」へのかかわり——まえがきに

かえて——の十五ページを読むだけでも「女性学」って何?? とか「数年前の状況からは想像し難い展開」が概観できる。何より著者自身の個人体験の一端が語られ、フェミニズムにひかれた経緯や「腑に落ちないものは腑に落ちない」と言い続ける何かが心の中にあつたといったくだりは、感情移入の激しい私など、ついそうだそうだと首肯してしまう。婦人雑誌の編集者としてある著名な「文化人」の係となった著者を、「女のこ」としか扱わない「先生」を、個人としてではなく「そういう男性を尊敬するような社会を喧嘩の相手にしようと思った」のだという。「専門家」になって、ある専門領域だけでもきわめたい、と。「兄二人の末娘で、年齢的には孫のような私を父は盲愛したらしい。その盲愛の背後に、冷静な目があった。女が経済的に独立できない故に、意志に反しても男に隷属して生きてゆかねばならない状況を彼は把握していた。(中略) 自分もま

た、女を泣かせることが許される男の一人でありながら、自分の娘には、そのような被害者になってほしくないという強い願望をもっていた」と父を語り、「私にとって、大きくなったら職業をもつということは、当然のこととなっていた」と結ぶ。

アメリカのカレッジを二つ卒業、東大大学院修士課程修了の後再びアメリカの大学院で博士号を獲得されたエリートではあるが、著者の体験は大なり小なり、すべての女性のくやしきや不平等感、不条理や割り切れなさや共通であると私は思う。こういう個人体験に触発されたエネルギーによってしか、人は自己変革も自己改革も遂げられはしないのだろう。教育の機会や社会的訓練の不足する女たちを、長年無能呼ばわりし、「男社会」であぐらをかいてきた男たちが、今、輝きや魅力を失っていても不思議はない。(奥川)

四六判／216ページ／1854円

看護婦



と



(6)

色部 稚恵さん

増田 れい子

東京都大田区の地域病院（大田病院）の婦長。島根県出身。あの竹下サンの出た小学校を出たんですよ……とまず笑って、山代巴さんの「荷車の歌」の舞台になった赤名峠のふもと、赤名の生まれですと続けた。

放射線技師を目ざして勉強中の十九歳の長女をかしらに、四人の子がいる。勤続二十三年。夫は同じ病院の事務職員兼ケースワーカー。病院から歩いて十五分のところに四LDKのマンションを十二年前に買い取り（住宅供給公社・三千五百万円だった）、七十歳になるまで月々三万円を返却してゆくのだそうだ。年収、税込みで六百万円ほど。

次女と三女は、「私もお母さんのように看護婦さんになりたい」と言っている。「子育ては成功したとは思っていませんけど……そういう言葉を聞くと何か嬉しいですよ」と、色部さんはホッと表情をなごませる。

この二十三年間、目もくらむような日々を過ごしてきた。志してこの道に来た。病んだ人を守りたい、その一心で働いてきた。しかし、なにぶんにも働く現場の状況はきびしい上にもきびしい。さらに、命のはかなさというか、死をくいとめることのできない場面に何度か出会って、自信を喪失したこともあった。

何のための看護だったのか、私は何の役にも立たなかったのか、氣負いと実力のギャップにノックアウトされ、苦しんだ。

また、つい最近のことだが、不酸素性脳症の子が退院して行った。お産のときの障害でアタマに酸素が行かなくなり、脳に障害をきたしたのだ。病院での治療は一応終わり、その子は退院して行ったのだが、治療は終わってもその障害は終わることなく、その子を不自由にする。母親はじめ家族の心労はいかばかりか。

「病院というのは、病院にいる間だけしかその患者を診ないわけですよ。でも、退院しても患者は患者のままなんですよね。外に出て、家庭にもどった患者をどうケアしていったらいいか、病氣とたたかうならそこまで考えてゆかないと。病院はいまのところ、パツと手を切ってしまうシステムになっている。それ問題なんですよね。患者と家族を支えるシステムづくりが出来ていない……」。

大田病院では、訪問看護にも力を入れ始めているところだが、色部さんは看護の現場から、こうして看護のスキマを発見しては、やりきれなさと同時にファイトもよびます。目くるめく日々の連続である。この一月、親友の同僚看護婦が亡くなった。ガンだった。

病床で一日一枚、年賀状をしたため、年あけてから力つきて逝った。しかし、その文面は平靜そのものだった。

彼女はかつて、目の前で幼いわが子を交通事故で死なせている。骨になってわが子のもとへ行った。

看護婦は、死ともっとも近い関係にある職業だ。死とたたかう職業である。そうして「死」の原因は多様であり、錯綜し、ときに看護婦の力だけでは（もちろん医療の力だけでは）くいとめることのできない死があふれている。

色部さんの「死」を見つめる日々をご紹介してゆこう。

大田病院Ⅱ大田区大森Ⅱは特定医療法人財団の総合病院、前身は診療所だった。戦後すぐ、この地域に出来た日本教具という教材会社が、付属の診療所を開設したのがそもそもの始まりで、その会社が倒産したあとも、診療所だけは地域の必要から存続がはかられた。しかし、再び倒産、一九七〇年に再建されて、いまに至っている。再建時、院長はじめ陣容が一新し、現在の吉田広海院長も、色部さんも、再建一期生。スローガンが三つある。

(一) 病院の運営はガラス張り、民主的な話しあい。

(二) 研修重視。

(三) 若手医師看護婦のエネルギーを開放する。

つまり開かれた病院経営。そして、地域奉仕の姿勢を持続することが、モットーだ。ところで、このあたりはかつてノリの生産地、ノリ関連の中小業者が多かったが、やがて東京湾岸が工業地帯になるにつれて、ノリ業は撤退のときを迎える。漁業権とひきかえに保証金をもらったノリ業者たちは小さなアパートを建てて、生きのびる。その小さなアパート群は、住宅難の若いサラリーマン夫婦を吸収していった。

一方、大田区は隣接する京浜工業地帯に付随して、下請けの町工場地帯を形づくってきた。つまり、この地域は戦後の高度成長を支える働く人々の町であった。高齢化してゆく古くからのノリ業者などを中心とした住民層、町工場で働く職人気質の人々、そして流入してきた若年サラリーマン層。

下町の活気が満ちる一帯である。それは今もさして変わらない。しかし、再建以来二十余年、やはりじわじわと地域の高齢化は進んでいる。大田病院の入院患者も、寝たきり長期の老人患者。いわゆる社会的入院患者の数が増えることはたしかだ。

大森東四丁目の、家並みのまったなかにある五階建ての病院。医師三十人、一日外来五百五十人。内科、

小児科、耳鼻科、眼科、婦人科、皮膚科、外科（脳外科はない）、泌尿器科、以上の外来と、病棟は五つ。一病棟は外科と整形外科、二病棟が神経内科、三病棟が呼吸器と内分泌関係、四病棟が小児科と消化器、五病棟が救急と循環器とICU。

他に手術室、透析室、訪問看護室と婦長室。人間ドックもある。ベッド数は二百八。看護婦はパートを入れて全員百三十人の陣容。

平均年齢三十四歳ぐらいで、経験年数十二十年のベテランが多いのが、大田病院の特徴といえる。色部さんと同じように再建一期生で、この地に理想的な地域密着型、つまり利潤追求型でなく福祉としての医療を実現したいと、意気こんでやってきた看護婦さんが多いからだ。

「働き続けよう」、それも「いきいきと働き続けよう」の合言葉で、看護労働を展開してきた。とはいっても、進学（准看から高看学校へ）や夫の転勤、家族の介護といったのっぴきならない理由や疲労から、看護婦の退職はひきもきらないといっている。結婚退職もある。

毎年三月にはまとまった数の退職者がどうしても出る。大田病院でもこの春、数人が職場を出ていった。

新入りは三人。ちょっと少なかった。

色部さんは婦長として、もうあと二十人増やして百五十人確保できたらなとも思っている。

看護婦さんの数というのは、国、厚生省の決めた定員ワケに従って決められる。病院が自由にその定員のワケを決めるワケにはゆかない。そういう「規制」がある。

大田病院の場合、一〜三病棟までは患者三・五人に対して看護婦一人（二・五対一）という特二類。第四、五病棟は二対一の特三類が認められている。

一番少ない割合だと、患者四人に対して看護婦一人、四対一。

さあ、そろそろ、色部婦長の肉声で語ってもらおう。

「患者さん一人に対して看護婦一人。それで一日三交替。ですから一人の患者さんを三人で看てゆくことができれば、理想ですね。」

いま、日勤が八時半から十六時半まで、準夜勤務が十六時から二十四時まで、深夜は二十三時半から翌朝午前九時までとなっておりますが、ズレ込みますね、どうしても。

これに変則が加わるんです。準夜の翌日は、午前中は休むことになってますが、午後出勤といって十三時から十七時まで勤務というのと、遅出勤といって十五時から十八時半まで勤務というのと二通りあって、生活パターンがいつも一定しないのが、ほんとうに悩みですね。

準夜深夜あわせて月十一回、これが組合と病院の間で協定している回数、二人夜勤でね。でも、これがなかなか守れないんです。

二人で十回以内にしたいんです。ヘルパーさんがいてくれますので、カバーされているんですが。ヘルパーさんを増やすのは問題です。経験年数がたとえあっても、給料の点で新卒の看護婦と同じですし。やはり看護婦を増やすことが肝心です」

病棟看護婦の勤務表を見せてもらった。

十一回の夜勤のうち四回は日勤深夜だ。恐怖の日勤深夜。ただ、大田病院では、朝八時半に出て十五時半で終わり、夜は二十三時半から出るようになってる。普通、他の病院では十六時半まで日勤するのだが、そこを一時間短縮している。

深夜勤の前日が休日になっている場合も多い。一見よさそうだが、実際やってみると休日の真夜中に出勤してゆくわけだから、その日、一日休日とはいえないもの。休んだ気分になれない。休日というのは、前の晩も当たり前前に早く寝られ、当日もゆっくりのびのび日付変更を意識せず翌朝まで休めてはじめて、休日、を真

感できるのだと、あらためて気づかされる。

だから有給休暇と重ねるなりして、連休を月に一回は入れるようにしないと、心理的には、休日なしの勤務状態になってしまう。

からだのリズムがくずれるからイライラし、疲労が抜けない、と多くの看護婦さんが訴えるのは、至極当然のことだ。

勤務表をつくるのは婦長の仕事で、まことに、大仕事だ。

「何年やっても勤務表をつくるのはたいへんな作業です。病棟によっては、神経内科病棟、つまり脳卒中の患者さんの多いところや、外科病棟ですと準夜は三人あてなければとてもケアできませんので、そのやりくり、ほんとうにアタマを痛めます。」

看護婦それぞれに一か月前から希望を出してもらって、生理休暇、有給休暇はいつほしいか、いつから産休に入るか、そういったデータを見ながら組んでゆきます。

手が足りていたら、ここでこの人にもあの人にも一週間続きの休暇あげちゃおう……なんて、楽しく勤務表つくれるでしょうにね。

日曜出勤またこの人にももらわなくちゃならない……なんて思うと、よし、それなら私が出るわ、なんて……。

子持ちの看護婦が多いですから、子どもの学校行事のスケジュール早く欲しいんですね。

要求のあったものは、できるだけ早くかなえるようにしたい。泣き笑いの勤務表がこうして出来上がります」

一応、出来上がると公開して、五日間の間に再調整し、決定版を発表する。完全な休日は月に二回くらいしかない。あらためて、過酷さがわかる勤務表ダイヤだ。

看護婦は、この勤務表のコピーを茶の間の一番見えやすいところへ張り出して、夫にも子どもにも一目瞭然にしているのが常だ。家族全員が結局、この勤務表にしばらくは縛られることになる。子どもにとっては、お母さんのいない夜が月に十回も、ときには十二回もあるわけで、その緊張感は相当なものだろう。

日勤深夜の日など、疲れてつい子どもを吐り続けてしまう。修復する間もなく母は出勤、子どもは半ベソのまま眠りにつく。

子どもを持って働き続ける看護婦には、誰しも覚えのあることだ。

正月休みは六日間。暮れの三十日から元旦四日までは手術室も休む。しかし病棟、透析、外来診療は休まないから誰をあてるか、思案のしどころ。夏休みは五・五日。生理休暇は月一日。産前休暇六十日、産後は五十六日（八週間）、満一歳になるまで育児休暇がある。育児休暇は、制度が決まってから実施された（九〇年）わけで、色部さんが四人の子を産んだときは、育児休暇はとり入れられていなかった。何でも話し合いの大田病院でも、それはむずかしかった。

「子どもはそれでも五人は欲しかった。四人とも産前産後の休暇だけで、産休明けすぐ働きました。

長女のときは資格のある保育ママさんに預けました。当時、世田谷区に住んでまして、区が「保育ママ」制度を採用してました。助かりましたよ。次女のとときはもう大田区に引っ越してまして、病院の隣にある保育所でゼロ歳児保育、長男、三女もそうです。

いまの四LDKに入れたのは三女のと時からです。子どもが増えるたびに少しましなところに引っ越しても次女のおフロのないアパートでした。洗濯機にお湯を汲んで入れてました。三番目の子が長男なんです、この子のととき、やっとおフロのあるアパートに入れて……」

色部さんは毎朝六時半から七時の間に起きる。婦長の勤務は原則日勤だから、まあ、ラクだ。パン、牛乳、野菜のいためもの、ユデタマゴかハムエッグにくだものというヘルシーメニューをテーブルいっぱい並べ

る。自分と子どもたちのお弁当も手早く用意する。

全員、カギを持って出かける。夜はどうしても遅くなりがちだが、火、木曜を除いて色部さんが担当。火曜の夜は研究日のため夫が夕食担当、木曜日は長女の担当。長女の都合のつかない日は、次女担当と決めている。

洗濯ものを干す仕事と食器洗いは毎日夫の役目。掃除は日曜日に色部さんの号令一下、二時間かけて徹底的にやる。ウィークデーは掃除をカットする。

生協に入っているので、一週間に必要な食料品が届く。週に一回、野菜を補給すればなんとかなる。

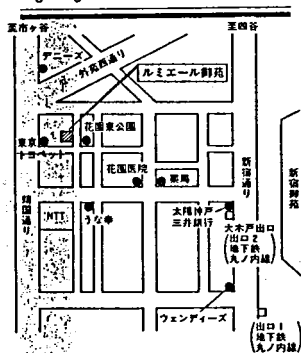
保育のサポートと生協が、看護婦の味方ですと、色部さんはしみじみ言う。

また、四人の子どもたちがみな、健康に恵まれた。それにつけても「健康」の確保が誰にとっても、社会にとっても、どれほど重要な課題か、色部さんは思いを深くするのである。

(この項つづく)

カラオケならあこらメイトのお店で

地下鉄丸の内線、新宿御苑駅から三分、ヘトツギアンは、会員鶴間史子さんのお店。今までのカラオケルームを一味も二味もファーストクラスに近づけたというしゃれた個室が九つ。気の合った仲間で、ファミリーでお楽しみください。ワンルーム一時間二千円から八千円、予約をして六時までに入った方は、最初の一時間は千円です。〈あこら〉の93年度会員証を持参の方は、五百円割り引きます。お昼は十一時半～三時、ランチタイム。気の合った方と個室でゆっくりお食事を。お部屋代は頂きません。



トップギア
ルミエール御苑2階
東京都新宿区新宿1-27-2
Tel.03-3350-5688

連載

凄惨！首里城地下の沖縄戦

琉球新報 32軍司令部壕取材班



幻の司令部壕

——全長二千キロ、津嘉山にほぼ完成
南部住民を動員して構築

首里の第三二軍司令部壕とともに歴史の中に埋もれ、忘れ去られようとしている壕がある。津嘉山軍司令部壕。南風原町津嘉山の高津嘉山の地下を、北西に貫いて構築されたこの壕は、実は、首里の司令部壕が造られる前の、第三二軍司令部の根拠地となるべき壕だった。

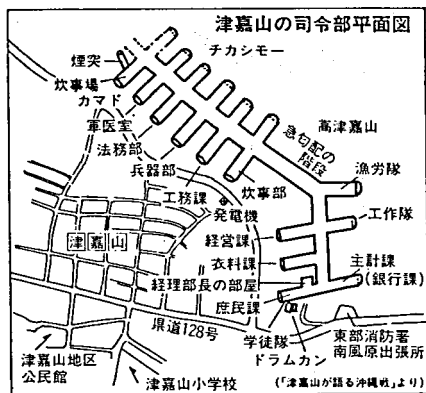
第三二軍が津嘉山壕を放棄し首里に新たな壕を構築することを決めたのは一九四四年（昭和十九年）十二月。津嘉山壕は司令部壕としては規模が小さかったことや、首里の方が戦場の展望がきくというのが司令部壕移動の理由だった。

第三二軍経理部築城班、第二築城隊が津嘉山壕構築に着手したのが四四年夏ころ。これには南部住民の多くが駆り出された。ランプ、ろうそくの明かりの下、スコップとつるはしの手掘り作業。固い岩盤を崩すのにダイナマイトも使用したという。

10・10空襲の後、第三二軍の部隊が続々と津嘉山に駐屯し

た。壕周辺の民家の三割は兵隊の宿舎に利用され、津嘉山は軍民雑居の状態になった。また、空襲で焼け出された日本銀行那覇支店も津嘉山に移り業務を続けた。学校も軍が使用したため、子供たちは野原にいすを並べ、黒板も無いまま先生の話を聞くだけの授業となった。

ススキの穂が野原に広がる十一月ごろには、総延長二千メートルの津嘉山壕の大部分が完成していた。津嘉山の子供たちにとって、突然現れた司令部壕は、格好の遊び場になった。津嘉山壕南側の入り口からほど近い民家に住んで



いた、大城由安さん(六〇)も、津嘉山壕で遊んだ一人。「ススキの穂を束ねろうそく代わりに火をともし、二、三十人の同級生を連れて中に入ったこともある。迷子になるくらい大きくて複雑な壕だった。まるで迷路

ですよ」と振り返る。

その後、三二軍司令部は首里に移されることになり、軍経理部など一部が津嘉山壕に配備されることになる。日銀の金庫も三月末に壕内に移される。そのころには遊び場だった壕は、子供はもちろん、付近住民もむやみに近づくとはできなくなった。

砲弾の中をひめゆり隊が水くみ

発狂する傷病兵も

津嘉山司令部壕には、事務要員としてひめゆり学徒隊に配属された沖縄県立第一高等女学校の学生十五人が勤務していた。その十五人は三人の教師が引率した。

一九四五年(昭和二十年)三月下旬、ひめゆり学徒隊は南風原陸軍病院に配属され、しばらくして一日橋、識名などにあった分室に配置された。津嘉山壕の軍医部はその一つだった。

新崎昌子さん(六四)は十五人の一人。三月二十八日に初めて津嘉山壕に入り、その規模に驚いた。発電機もあり、壕内は電球がこうこうと光っていた。「南風原の壕に比べ

て、なんて上等な壕だろうと思った。司令部壕として掘られていましたから」。

学徒隊の任務は水くみ、食糧運搬など雑役が主。四月中旬に傷病兵が壕に運ばれるようになって、その看護任務も負わされるようになった。

同じ学徒隊の宮城喜久子さん（六三）にとって一番怖かったのが水くみ作業。「砲弾の中、鉄カブトをかぶり、一斗樽（たる）を担いで津嘉山の部落を通った。弾がきたら慌てて地面に伏せる。大雨の時期なので体中泥だらけになった」と語る。

五月になり、津嘉山壕軍医部にも大勢の重傷者が運ばれるようになり、学徒隊は激務に追われた。そのころには発電機が破壊され、壕内での活動はろうそくとランプの明かりが頼りとなった。

「軍医部へは怖くて一人で行けなかった。はしごで登り降りする所もあり、暗い中、三十分もかけて南側入り口の詰め所から北側の軍医部にたどり着いた」と新崎さんは振り返る。

重傷患者のほとんどは壕内で息を引き取った。中には脳障害を起こし発狂する兵もいた。わずか十六歳の宮城さん

は兵士たちの断末魔に何度も接した。

「発狂して柱に縛られた兵やいくら包帯を巻いてもそれ自分で外し、裸になる兵もいた。『兵隊になっても、けがはするなよ。惨めだよ』と言葉を残し、死んでいく兵もいた」。

首里から撤退した三三軍司令部が津嘉山に立ち寄った後、津嘉山壕の各部隊は五月三十一日以降、南部へ撤退する。学徒隊は恐怖に震えながら、雨の中、壕を出た。

軍事拠点となった首里城

——地理的にも心理的にも作戦上効果的

首里城正殿にかけてあった万国津梁の鐘に、「琉球国は南海の勝地（琉球は、東アジア世界のすぐれた地点に立地する）」と刻まれている。その琉球王国の象徴、首里城は、政治行政、海外交易の拠点だっただけでなく、軍事的に見ても優れた立地だった。

那覇市東部の丘陵地帯の一番高い地点に位置し、周囲を流れる真嘉比川と金城川が天然の外堀となっている。北に末吉や浦添の丘陵、東に弁ヶ岳が連なる。南側から南部を

展望、西の丘陵を下ると那覇市街地と東シナ海を見渡せる。

三三軍参謀だった神（じん）直道さん（八〇）は、首里城の立地を絶賛、日露戦争の激戦地、二百三高地の戦いを例に挙げて説明する。

「私の尊敬する児玉（源太郎）大將は、乃木将軍が戦闘の最前線からはるかに遠い所に司令部を置いて指揮しているのを最前線に引っ張り出した。それが功を奏して兵隊の士気も上がって、難攻不落のロシア軍陣地が落ちた。首里の司令部壕はまさに前線基地の設置だった」

つまり「首里に司令官がいるということが、那覇の最前線の兵士らには、『後ろに下がれない、那覇から撤退できない』という無言の支えとなって、戦闘作戦上も効果的だった」というわけだ。

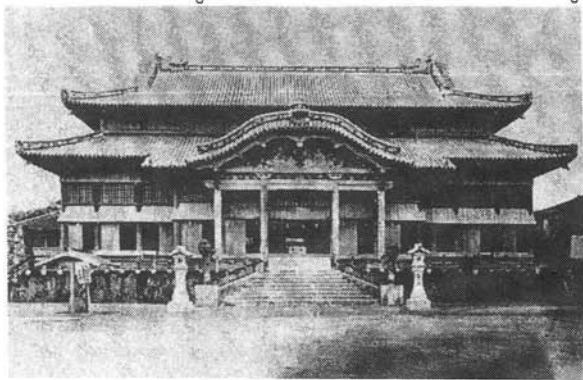
一八七九年（明治十二年）明治政府による『琉球処分』（沖縄県設置）で、首里城は五百年にわたる行政、文化の中心としての歴史の幕を閉じた。代わって同年、首里城に熊本鎮台沖縄分遣隊の兵舎が置かれ、軍事拠点として位置付けられるようになる。

一九一三年（大正二年）十二月から翌十四年一月の『琉球新報』は地上戦を想定した第六師団混成部隊の軍事演習

シナリオを掲載。シナリオによると沖縄守備軍司令部は首里に設置された。こうした流れをくんで沖縄戦でも首里城の真下に司令部壕が構築された。

一方、米第十軍は沖縄上陸直前の四五年二月二十五日、『TECHNICAL BULLETIN（技術要綱）』を出した。その中に「重要な公共財産は破壊する必要はない」と明記している。

「そんなことができるわけがない。米軍も日本軍も、軍隊はそれが貴重な文化財だろうが、どうであろが、軍事作戦上必要であれば攻撃した」と神さんは米軍の命令を疑問視する。事実、軍事拠点として利用された首里城は見る影もなく破壊し尽くされた。



軍事拠点として位置付けられた時、首里城の運命は決まった

6・12	<p>連続シンポ第1弾 創憲・立法改憲路線を問う！ 東京芸術劇場大会議室 13:00 ～ 小林孝輔、暉峻淑子、山内敏弘、山川暁夫 三千語宣言 連絡先03-3293-8368</p> <p>匿名報道とは何か ――報道被害と権力チェック 渋谷区立勤労福祉会館 13:30～17:00 西山武典、弘中惇一郎、村上孝止、浅野健一 人権と報道・連絡会議 連絡先03-3328-7609</p>
6・13	<p>反PKO六月行動 水上音楽堂(上野) 13:00 ～ 多摩じまん、中山千夏、内藤 隆 ほか 市民の意見三十の会 連絡先03-3390-3436</p>
6・15	<p>命どう宝=憲法、いのち、PKO ――「PKO法」この1年 山手教会(渋谷) 18:30 ～21:00 吉武輝子、ダグラス・ラミス、増田れい子、友田良子ほか 6・15「PKO法」この1年実行委員会 連絡先03-3813-5684</p>
6・19	<p>住民票続柄裁判5周年 第一審不当判決2周年集会 東京芸術劇場 14:00 ～ 講演 上野千鶴子、報告 榊原富士子、福島瑞穂 住民票続柄裁判交流会 連絡先03-3302-3345</p>
7・3	<p>PKOの日本からパレスチナへ ――映像と証言 早稲田奉仕園 18:00 ～ 広河隆一 パレスチナ子供のキャンペーン 連絡先03-3205-6824</p>

集会案内

6・5	<p>民衆にとって加害・戦争責任とは？ 都立南部労政会館（大井町）開場 14:00～17:00 問題提起と討論 劉建業、常石敬一、高橋彦博ほか 「731部隊」展東京実行委員会 連絡先03-3331-4533</p>
	<p>日・韓ハッキリコンサート 日本教育会館（一橋）ホール 開演17:00 出演者 金永東&スルギドン、季仙姫、上々颯風ほか チケット代 3500円 日・韓ハッキリコンサート実行委員会 連絡先03-3301-4243</p>
6・6	<p>いいかげんにしろ！皇太子結婚 私たちは祝わない6・6 上野水上音楽堂 開場 12:00～18:00 コンサート&トーク（生田萬式&SOSO、池田浩士ほか） 沖縄植樹祭・天皇の沖縄訪問に反対する共同行動 連絡先03-3205-7363</p>
	<p>皇太子結婚フィーバーに異議アリ!! 横浜女性フォーラム・セミナールーム3 13:30より 講師 浅野健一 天皇制を考える教員の会 連絡先045-413-0897</p>
6・9	<p>性と天皇性を考える 早稲田奉仕園地下ホール 13:30～16:30 花柳幻舟 石川逸子 グループ・性と天皇制を考える 連絡先03-3261-6231</p>
	<p>何がメデタイ皇太子「結婚」!?京都発 ——女たちは祝わない 洛陽教会 14:00～16:00 その後デモ 皇甫康子、藤谷不三枝、谷口ひとみ 075-983-2285 何がメデタイ皇太子「結婚」!?京都発—女たちは祝わない集会実行委員会</p>

◆新しい仕事に就きました

三月から、外口玉子さんのスタッフとして議員会館に通り始めました。

もう三十年前ほどにもなりますが、PTAに始まって、全国婦人新聞社、調布・教育委員会を自分たちで選ぶ今、準公選の全国連絡会、そして市長選挙と、その折々のかかわりの中で、ずいぶんいろいろな方々のお世話になりました。そのご縁で、この度の外口さんとお話も自然に育まれていたように思います。

外口さんの、平和憲法についてのゆるがない信念、常に市民の立場に立ってのからだを張った行動に感動して、非力をかえりみずお手伝いを始めました。

外口さんは、保健・医療・福祉がご専門ですが、あらゆる人々とのかわりで、そのご活動分野も、どんどん拡大しています。その誠実な態度を知れば知るほど、いまこの環境にあることを感謝しています。

外口さんの選挙区の東京四区（渋谷、中野、杉並）は、たいへん厳しい状況です。お一人でもお力を貸して下さいますよう、お願いします。

（調布市 前橋弘子）

〔異動・移動〕

◆四月から東大の文学部で家族社会学の講座を持ち始めま

あごらのあごらのあごらのあごらのあごらの

した。住居は相変わらず京都が本拠です。よろしく。

（京都 上野千鶴子）

◆県立かながわ女性センターを、この三月に退任いたしました。八二年十一月に開館以来十余年、皆さまから暖かなお励ましお力添えを頂きましたこと、厚くお礼申しあげます。

開館十周年記念事業として私がかかりました戦後神奈川女性史「共生への航路 かながわの女たち45〜90」の刊行や「江の島国際女性映画祭」なども、多くのご協力のもと評価を頂き無事終了いたしました。おこがましい申しようながら私にとりましては、大団円のうちに暮おりの思いでございます。

（前県立かながわ女性センター館長・顧問 金森トシエ）

◆旧宅改築のため北新宿に移転しました。一九九四年末までいる予定です。犬づれを受け入れてくれるマンション探しで苦勞、ようやく見つけました。

（東京 田中喜美子）

◆三月末に引越しました。都心から三十分。アパートと駐車場ばかり……と思いきや、行商のおばさんが太く不格

好きなアイコンを民家の軒先に並べていたり、週末には窓からデイズニールランドの花火が見えたりとか、なかなか味のある地です。近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。

(船橋市 小島明日奈)

◆日本女性学研究会(WSSJ)

↓大阪市都島区都島北通一―十四―二

サンロイヤル都島大通一〇三号室に。

☎〇六(九二三)六四三〇 FAX 六四七〇

◆仕事を探しています

家庭科の教師として十二年間、女性問題、特に女性の自立の問題、性の問題、家族のあり方などについて生徒と一緒に考えてきました。

一身上の都合で、職を手放してしまいましたが、やはり、私の生きがいは、若い人たちと共に自分の生き方を考えることだと痛感しています。何かそういうことが生かせる職があったら、是非紹介して下さい。

(葛飾区 山口由美子)

あごろのあごろのあごろのあごろのあごろの

◆護憲連合、原水禁、解放共闘、労農会議

↓東京都千代田区神田神保町三―十七―十一

一ツ橋Kビル五階 合同事務所内に。

☎〇三(三三三二)一九七一 FAX 一九七三

(あごろのあごろを読んで)

◆嫌煙運動に感激

沖縄市職の伊良部さんの「タバコ・ウオーズ」五年に及ぶ地道な運動の報告を興味深く読ませていただきました。私も自治体職員労組の婦人部役員をしています。喫煙問題はなかなか手つかずで、気にはなりながらも、男性職員の多い中「どんなふうにしたら……」と悩むばかりでした。実際には禁煙している男性も結構あり、運動は案外すむんじゃないかなと思うのですが、最初の一步が出ませんでした。

伊良部さんたちの経験の載った『あごろ』片手に「いっちょやっとうか！」と決意したところです。ビラなど資料譲っていただければうれしいのですが……連絡先お教え下さいませ。

(吹田市 林 雅子)

◆毎号の『あごろ』の取り上げるテーマは多岐にわたっている、自分のあまり考えたことのないテーマのときは、

ついでいけないと思っていましたが、今は何でも吸収したいと思うようになり、とりあえず積極的な読者を目指します。

(足立区 井上陽子)

◆この二十年、母やおばに借りて読んでいましたが、東京を離れたからこそ、読み続けたいと思っています。

(仙台 郡美佐子)

◆このところ「まあこんなふうになりたい!」と思う女性治療者(六十代と四十代)に二人もめぐり会うことができました。首都圏に研修で出てきて、ほんとうに良かったと思いました。「患者さんの身になること」「患者さんを本当の意味でサポートすること」の難しさを改めて実感している今日この頃です。

(札幌市 小松ともみ・精神科医)

◆訂正してください

『あごろ』182号、「佐川・セクハラ・均等法……女性議員は語る」に、私のことはおとりあげいただき恐縮です。ただしニュアンスがちょっと違います。「質疑応答」に入り、矯風会の高橋喜久江さんから「売春防止法は皆さん女性議員の手でできた。慰安婦問題も皆さん方で解決で

あごろのあごろのあごろのあごろのあ

きないはずはない」と、強い要請と激励があった」とありますが、「売春防止法は超党派の婦人議員の力で成立した。いま慰安婦問題を超党派のみなさんの手でとりくんでほしい。先輩たちにできてみなさんができないのなら、歴史の進歩はないことになる」と発言しました。次号で追記していただければ幸せです。

(東京 高橋喜久江)

〈BOC〉で社債を募集

〈あごろ〉の版元、〈BOC〉は、地下鉄からゼロ分、交通至便の場所でしたが、地上げのため、今年十一月末に移転することになりました。いま、今までの近くのビルかマンションを物色中ですが、借家の悲しさを体験しましたので、思いきって中古を買うことも考えています。つきまして〈あごろ〉の会員の方から社債を募集したいと思います。

一口 五十万円 年利 五分 ですが、ご希望の方はご連絡下さい。十年償却です。〈BOC〉は決して高収益ではありませんが、三十年間、堅実経営を続けてきました。あと十年は、多分破産しないと信じています。どうぞよろしく!

「へあこらは、ギリシャ語で「人と人が出会うひろば」の意味。

女の生き方、人間の解放について話しあうひろば。さくのないひろばです。

経歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、と、

・九七三年以来、資料誌「あこら」（現在の「特集」）を、また一九七七年からは「月刊あこら」を発行しながら、さまざまな話し合いを重ねてきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにほしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなた自身の情報を、どしどしお寄せください。全国各地のへあこら拠点にもお出かけください。

●「月刊あこら」購読料は、月額六八〇円から九八〇円。年間購読料（前納）は七、二〇〇円です。

●一年分を前納した方は会員になります。

●会員は次のような活動に参加できます。

①北海道から沖縄まで各拠点独自の活動（例会・研究会・各種集会・月刊編集その他）への参加

②月刊「あこら」の編集

③「あこら書房」の利用と運営

④あこら書房の運営

⑤可能性教室（「フェミニズム英語」「自立の心理学」などの運営、その他）

●会費は月額六百元（月額七千二百円、「月刊あこら」の購読料込み）。前納制。入会金は不要。

●申し込み方法

住所氏名・連絡先電話を振込用紙に書いて

年間購読料七、二〇〇円を郵便振替・東京0115264へあこらへ。

●連絡先・〒160 東京都新宿区新宿一の九の六 あこら ☎03-3354-3941

あこら 185号 1993年6月10日発行

●編集 あこら事務局

●発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 ●03-3354-3941 ●振替東京0-5264

●発行人 くあこら企画会議 定価886円（860円＋税26円）

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球

かけがえのないわたし

かけがえのないあなただから

たいせつに たいせつに しよう

あなたも

わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば